



五城目町

GOJOME TOWN

防災マップ

安全で安心なまちづくり



作成：令和8年5月

はじめに

近年、異常気象による自然災害が全国各地で発生し、大きな被害をもたらしています。本町においても豪雨災害が繰り返し発生しており、毎年のように豪雨や台風に備えた防災対応を行っている状況です。このような気象状況の変化に対応するため、日頃から防災への意識を高め、いざというときに備えておくことが大切です。

この防災マップは、**五城目町で起こるおそれのある災害に備え、住民の皆さんが安全に行動できるよう作成したものです。**洪水（外水氾濫・内水氾濫）、土砂災害、津波などのハザードマップを掲載し、**危険な場所や避難場所、避難のタイミング、日頃からの備え**を分かりやすくまとめています。

まずは、ご自宅やその周辺の状況を確認してみましょう。

危険な場所にお住まいの場合は、町から避難指示等が発令された際に、**いつ・どこへ・どのように避難するかを、あらかじめ確認しておくことが重要です。**

災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。**日頃の備えと一人ひとりの行動が、安全で安心なまちづくりにつながります。**本防災マップを活用し、主体的に防災に取り組みましょう。

令和8年5月 五城目町

索引

はじめに 索引	1	【津波ハザードマップ】	14
新たな防災気象情報について	2	雪害への対応 地域の防災力を高める「自助」・「共助」・「公助」	15
町の情報伝達手段(1)(2)	3・4	わが家の防災対策&チェック	16
知っておきたい防災情報	5	避難行動判定フロー	17
風水害への対応、台風への対応	6	指定緊急避難場所・指定避難所一覧	18
浸水害(洪水)への対応	7	五城目町全体図	19・20
土砂災害への対応	8	【洪水・土砂災害ハザードマップ】 五城目町詳細図1~11	21~41
火災への対応	9	内水氾濫への対応	42
地震への対応	10	【内水ハザードマップ】	43・44
地震防災マップ	11	非常時持出品の準備&チェック	45
震度と揺れについて	12	わが家の「防災・緊急情報」メモ	46
津波への対応	13	WEB版ハザードマップ・防災関係機関連絡先・リアルタイム情報提供	裏表紙

新たな防災気象情報について

警戒レベルを確認して逃げ遅れゼロへ!



令和8年5月下旬（予定）より、**気象の警報などが大きく変更**となりました。
 下の表は、災害時に「いつ・どの段階で・どんな行動を取るか」を確認するためのものです。
 それぞれの警戒レベルに相当する情報を、早めの避難行動の判断に役立ててください。
警戒レベル5の状況では既に災害が発生して安全な避難ができないおそれがあります。**警戒レベル3**や**4**の段階で避難することが重要です。

警戒レベル	大雨浸水 低地の浸水や 小さな河川の氾濫	河川氾濫 1級河川などの 大きな河川の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ 崩れや土石流	住民が取るべき行動	行動を促す情報
5	レベル5 大雨特別警報	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1
〜 〈警戒レベル4までに必ず避難!〉 〜					
4	レベル4 大雨危険警報	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	危険な場所から全員避難	避難指示
3	レベル3 大雨警報	レベル3 氾濫警報	レベル3 土砂災害警報	危険な場所から高齢者等は避難※2	高齢者等避難
2	レベル2 大雨注意報	レベル2 氾濫注意報	レベル2 土砂災害注意報	自らの避難行動を確認	大雨注意報・氾濫注意報 (気象庁)
1	早期注意情報			災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではありません
 ※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングです
 ※命を守るため、警戒レベル4までに必ず避難しましょう。



警報・注意報の情報名に「レベル」が付記されます

◎発表される警報・注意報の名称にレベルが付記されます。避難行動と直結するレベルがすぐわかり、避難判断の目安が明確になります。

【変更例】

(旧)「大雨警報」

→ (新)「レベル3大雨警報」

警戒レベル3（高齢者等避難）に相当



河川の氾濫の危険度の伝え方が変わります（特別警報の新設など）

◎従来の「洪水警報」「洪水注意報」は廃止されます。今後は河川の区分に応じ伝え方が変わります。

【変更例】

(旧)「洪水警報」

→【洪水予報河川※】

(新)「レベル3氾濫警報」

→【洪水予報河川以外の河川】 (新)「レベル3大雨警報」

◎河川の氾濫に関し「レベル5氾濫特別警報」が新設されます。

※国土交通省または都道府県と共同で発表する洪水予報の対象河川



「警戒レベル4相当」の情報は「危険警報」として発表されます

◎危険な場所から避難が必要な状況であるレベル4相当の情報が「危険警報」として発表されます。

【変更例】

(旧)「土砂災害警戒情報」

→ (新)「レベル4土砂災害危険警報」



線状降水帯の発生などは「気象防災速報」として発表します

◎極端な現象は新たに「気象防災速報」として発表します。

【変更例】

(旧)「顕著な大雨に関する気象情報」

→ (新)「気象防災速報（線状降水帯発生）」

(旧)「記録的短時間大雨情報」

→ (新)「気象防災速報（記録的短時間大雨）」

町の情報伝達手段(1)

町では、災害時や緊急時に備え、防災行政無線や携帯電話への情報配信など、複数の方法で防災情報をお知らせしています。しかし、生活環境や通信状況などにより、すべての方が同じ方法で情報を受け取れるとは限りません。

そのため、町からの情報に加え、町内会や自主防災組織、隣近所での声かけなど、地域で助け合う取り組みが重要です。日頃から、いざというときに情報を伝え合える体制づくりについて、地域やご家庭で話し合っておきましょう。

(1) 防災行政無線

町では、平成31年4月から防災行政無線の運用を行っています。町内に設置された屋外拡声子局のスピーカーから、災害時などの緊急情報を音声で放送します。避難所を中心とした主な公共施設には戸別受信機を設置しており、建物内でも放送内容を聞くことができます。



※屋外拡声子局

各屋外拡声子局にはマイクが設置されており、周辺地域への呼びかけや放送も可能です。放送を聞き逃した場合は、「聞き直しダイヤル」により、放送内容を電話で確認することができます。令和7年6月からは、通話料無料のフリーアクセスを導入していますので、ぜひご利用ください。



※戸別受信機

● フリーアクセス (無料) TEL : 0120-04-3220

(県内の固定電話・携帯電話などから利用できます)

● 有料ダイヤル TEL : 018-852-3220

(2) エリアメール・緊急速報メール

町では、携帯電話会社との協定に基づき、「エリアメール・緊急速報メール」を活用して、災害時の緊急情報を配信しています。

このメールは、「緊急地震速報」や「ミサイル発射情報」など、命に関わる情報を、地域内の携帯電話へ一斉に送信する仕組みです。対応する携帯電話をお持ちの方は自動的に受信し、マナーモード中でも警報音が鳴ります。受信した際は、内容を確認し、落ち着いて身の安全を確保してください。



(3) 登録制メール

町では、災害時や緊急時の情報をできるだけ早く・確実にお知らせするため、登録制メール配信サービスを運用しています。令和8年4月からは「すぐメールplus+」による配信を開始しています。

登録すると、地震・大雨・台風などの災害情報や避難指示などの防災情報のほか、町からのお知らせを、携帯電話やスマートフォン、パソコンへ直接メールで受け取ることができます。

登録は無料で、事前にメールアドレスなどを登録することで利用できます。災害時には、防災行政無線や携帯電話の緊急速報メールとあわせて活用することで、より確実に情報を受け取ることができます。災害はいつ起こるか分かりません。いざというときに備え、事前の登録をお願いします。

なお、登録料は無料ですが、登録やメール受信にかかる通信料は利用者の負担となります。

【登録方法】

登録方法の詳細は、次のQRコードからご確認ください。
手順は次のとおりです。

1. 空メールを送信します。
2. 返信メールが届きます。
3. 利用規約を確認します。

サービス利用には利用規約への同意が必要です。

4. 登録後、登録完了メールが届きます。

【登録用QRコード】

スマートフォンからQRコードを読み取るだけで、すぐ登録できます



登録方法の詳細はこちらから



【登録用QRコード】登録はこちらから

町の情報伝達手段(2)

(4) NHKのデータ放送

テレビのデータ放送（NHK総合）では、防災情報を確認することができます。データ放送の「防災・生活情報」では、五城目町からのお知らせのほか、気象庁などが発表する地震や気象に関する情報を確認できます。災害時だけでなく、平常時からテレビのデータ放送を活用し、最新の防災情報を確認しましょう。



リモコンの「d」ボタンを押して、日頃から防災情報を確認しましょう。

(5) 町のホームページ

町では、災害時や平常時に、町のホームページで、防災情報や町からのお知らせを発信しています。

インターネットが利用できる方は、災害時には最新の情報を、平常時には防災に関するお知らせを随時確認するようにしましょう。

町ホームページアドレス <https://www.town.gojome.akita.jp/>



※町ホームページ

(6) 町公式LINE

町では、令和8年4月から町公式LINEを運用しています。

町公式LINEでは、災害時の緊急情報や避難に関するお知らせのほか、平常時には、防災に関する情報や町からのお知らせを受け取ることができます。

登録は無料です。右のQRコードから簡単に登録できます。

災害時の大切な情報を確実に受け取るため、町公式LINEへの登録をお願いします。



登録(友だち追加)
はこちらから

(7) ヤフー!防災速報アプリ

町では、令和2年4月からヤフー株式会社との協定に基づき、「Yahoo!防災速報」アプリを活用した防災情報の提供を行っています。このアプリでは、地震・大雨・台風などの災害情報や、避難に関する情報を、スマートフォンやタブレット端末などで受け取ることができます。アプリは無料で利用できますので、事前にインストールしておきましょう。



▶ iPhone



▶ Android



(8) 秋田県災害情報発信システム

秋田県が運用する「秋田県災害情報発信システム」は、令和2年4月から運用されており、地震や大雨などの災害時に、県内の被害状況や避難情報、気象・河川に関する情報をまとめて確認することができます。

このシステムは、パソコンやスマートフォンから利用でき、県や市町村、関係機関が発信する災害情報を一元的に確認することができます。

災害時には、町からの避難情報や防災行政無線などとあわせて活用し、正確な情報を確認したうえで、落ち着いた行動につなげましょう。



※閲覧ページ

閲覧用ページアドレス <https://www.bousai-akita.jp/sns/>

知っておきたい防災情報

気象庁や秋田県では、災害から身を守るため、さまざまな防災情報を提供しています。住民の皆さんには、自らの命は自らで守るという「自助」の考えに基づき、日頃から防災情報を確認し、災害に備えていただくことが大切です。

このページでは、災害への備えや避難の判断に役立つ防災情報について紹介しています。平常時から確認し、いざというときの行動に役立てましょう。

(1) 早期注意情報(警報級の可能性)

テレビや新聞などで天気予報を確認することができますが、気象庁では、より詳しい情報を「防災気象情報」としてホームページなどで公表しています。

このうち、「早期注意情報(警報級の可能性)」は、今後5日先までに、警報が発表される可能性を「高」、「中」の2段階で示し、週間天気予報を補足する情報です。

大雨や強風などが予想される場合に、早めに災害への心構えや備えを行うための目安として活用できます。

平常時から、スマートフォンやパソコンで情報を確認できるようにしておき、日頃から防災への備えにつなげましょう。

5日先までの早期注意情報(警報級の可能性)

〇〇県南部の早期注意情報(警報級の可能性)
南部では、4日までの期間内に、暴風、波浪、高潮警報を発表する可能性が高い。
また、4日明け方までの期間内に、大雨警報を発表する可能性がある。

警報級の可能性	3日			4日			5日	6日	7日	8日
	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24					
大雨	[中]								[中]	
暴風				[高]					[中]	[高]
波浪				[高]					[中]	[高]
高潮				[高]					[中]	[高]

【高】: 警報を発表中、又は、警報を発表するような現象発生の可能性が高い状況です。明日までの警報級の可能性が【高】とされているときは、危険度が高まる詳細な時間帯を本ページ上段の気象警報・注意報で確認してください。
【中】: 【高】ほど可能性は高くありませんが、命に危険を及ぼすような警報級の現象となりうることを表しています。明日までの警報級の可能性が【中】とされているときは、深夜などの警報発表も想定して心構えを高めてください。
※警戒レベルとの関係
早期注意情報(警報級の可能性)・・・【警戒レベル1】
*大雨、高潮に関して、【高】又は【中】が予想されている場合。

翌日まで
・天気予報と合わせて発表
・時間帯を区切って表示

2日先～5日先まで
・週間天気予報と合わせて発表
・日単位で表示

翌日まで
前日の夕方段階で、必ずしも可能性は高くないものの、夜間～翌日早期までの間に警報級の大雨となる可能性もあることが分かる！

2日先～5日先まで
数日先の荒天について可能性を把握することができる！

(2) キキクル(危険度分布)

気象庁が提供する「キキクル(危険度分布)」は、警報や注意報が発表された際に、実際にどの場所で災害の危険度が高まっているのかを、地図上の色分けにより分かりやすく示した防災気象情報です。

キキクルには、「土砂キキクル」「浸水キキクル」「洪水キキクル」などの種類があり、災害の危険度を5段階の色分けで、リアルタイムに確認することができます。これにより、自分のいる場所やその周辺の危険度を把握し、避難の判断や、早めの行動につなげることができます。

なお、令和8年5月下旬(予定)からは、洪水と浸水の危険度を重ねて表示する「大雨キキクル」が新たに表示される予定です。



令和4年8月大雨災害時の洪水キキクル

(3) 河川水位(秋田県河川砂防情報システム)

町内の河川には、秋田県が6か所に水位計を設置しています。

このうち、久保町内と黒土町内の2か所では、それぞれ馬場目川と内川川の水位を常時確認することができます。

また、竜馬橋・昭辰橋・中屋敷橋・富田橋の4か所には、一定の水位に達すると観測を開始する簡易水位計(危機管理型水位計)が設置されています。

これらの水位情報は、「秋田県河川砂防情報システム」から確認できます。さらに、中屋敷橋・昭辰橋・湯ノ又橋や黒土町内には河川カメラが設置されており、河川の状況を映像でも確認することができます。

大雨の際には、町から発表される避難情報を最優先に確認するとともに、河川の水位や状況も参考にしながら、早めの避難行動を心がけましょう。

「秋田県河川砂防情報システム」は、右のQRコードからアクセスできます。



※秋田県河川砂防情報システム

風水害への対応

本町でもっとも身近な自然災害の一つが風水害です。風水害には、短時間の大雨による浸水害(洪水)や土砂災害、暴風や豪雨を伴う台風などがあります。防災気象情報を正しく理解し、早めに行動することが重要となっています。このページでは、風水害に関する基本的な考え方や、台風や大雨に備えるためのポイントを説明しています。浸水害(洪水)や土砂災害が発生するおそれがある場合の具体的な避難行動については、次ページ以降で詳しく紹介しています。

防災気象情報をキャッチしよう！

レベル2 大雨注意報 大雨による災害のおそれがある場合に発表されます。今後の雨の状況や気象情報に注意し、災害に備えてください。	レベル3 大雨警報 大雨により土砂災害や浸水などの災害が発生するおそれが高まった場合に発表されます。避難に時間がかかる高齢者や体の不自由な方などは、早めの避難を検討してください。	レベル4 大雨危険警報 大雨による災害の危険度が非常に高く、避難が必要となる可能性が高い状況を示します。「避難指示」を発令する判断の目安となる情報であり、危険な場所にいる方は速やかに避難行動をとることが重要です。	レベル5 大雨特別警報 台風や集中豪雨等により、浸水害の起こるおそれが著しく大きい降雨量に相当する大雨が予想される場合に発表されます。	強風注意報 強風により災害が発生するおそれがあると予想される場合に発表	暴風警報 暴風により重大な災害が発生するおそれがあると予想される場合に発表	暴風特別警報 数十年に一度程度の非常に強い暴風となり、重大な災害が発生するおそれが著しく大きい場合に発表
---	---	--	---	---	---	--

※令和8年度出水期からの変更 気象防災速報

雨の強さと降り方 ※本町で観測史上1位の1時間雨量は、78.5mm(2025.8.15) ※記録的短時間大雨情報発表。2位69.0mm(2022.8.12)。(1時間雨量:mm)

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
10以上~20未満	20以上~30未満	30以上~50未満	50以上~80未満	80以上~
雨の音で話し声が聞き取りにくくなる。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれ始める。	山崩れやがけ崩れが起きやすくなる。危険な場所では警戒が必要。	マンホールから水が噴き出す。土石流が起こりやすく、多くの災害が発生するおそれがある。	雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方 ※本町で観測史上1位の最大風速は、20.9m/s(2012.4.4)。2位19.0m/s(1991.9.28)。

風速は10分間の平均風速で、瞬間風速とは区別されています。

(平均風速:m/秒)

10以上~15未満	15以上~20未満	20以上~25未満	25以上~
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風 ※本町で観測史上1位の最大瞬間風速は、30.5m/s(2012.4.4)。2位25.2m/s(2021.1.7)。

台風の「強さ」は中心付近の最大風速で、「大きさ」は「強風域(風速15m/s以上)」の半径の範囲で定義。

強さ	最大風速	大きさ	風速15m/s以上の半径
強い	33m/s以上44m/s未満	大型(大きい)	500km以上800km未満
非常に強い	44m/s以上54m/s未満	超大型(非常に大きい)	800km以上
猛烈な	54m/s以上		

台風への対応

◆家の外の備え ※大雨が降る前や、風が強くなる前に行いましょう。

- ・窓や雨戸はしっかりと施錠し、必要に応じて補強しておきましょう。
- ・側溝や排水口を清掃し、雨水が流れやすい状態にしておきましょう。
- ・植木鉢や物干し竿など、風で飛ばされやすい物は固定するか、屋内に片付けましょう。

◆家の中の備え

- ・懐中電灯や携帯用ラジオ(乾電池)、救急用品、衣類、非常用食品などを確認しておきましょう。
- ・窓ガラスには飛散防止フィルムを貼るなどし、飛来物に備えてカーテンやブラインドを閉めておきましょう。
- ・断水に備え、飲料水を確保するとともに、浴槽に水を張るなど生活用水を確保しておきましょう。

◆早めの自主避難の検討

町では、台風の接近や勢力を踏まえ、必要に応じて避難所を開設し、自主的な避難を呼びかけています。台風時は、大雨による浸水や土砂災害に加え、暴風による被害にも注意が必要です。強風の中での移動や屋外での行動は非常に危険なため、避難はできるだけ風が弱いうちに行うことが重要です。

特に、土砂災害警戒区域など危険性の高い地域にお住まいの方は、町からの避難指示等を待たず、台風の風が強まる前に安全な場所へ避難することを検討しましょう。

浸水害（洪水）への対応

本町では、近年、大雨による被害が相次いで発生しています。

令和5年7月の大雨では、五城目アメダスで24時間最大雨量139ミリ、水沢雨量観測所で24時間最大雨量188ミリを観測し、久保水位観測所および黒土水位観測所で、いずれも過去最高となる水位（久保5.23メートル、黒土、4.44メートル）を記録しました。

この大雨により、延べ608棟の住家で床上・床下浸水の被害が発生しています。浸水害（洪水）は身近な災害です。ここでは、浸水害（洪水）への具体的な対応をまとめています。




①まずは、洪水ハザードマップで自宅の位置を確認しましょう。

19ページからの洪水ハザードマップで、自宅が浸水想定区域に含まれているか、または過去に浸水したことがある場所かを確認しましょう。

自宅やその周辺にどんな危険があるのかを知ることが、安全に避難するための第一歩です。

②次に、浸水深に応じた避難行動を確認しましょう。

自宅が浸水するおそれのある区域にある場合は、町から「避難指示」などが出たときに、早めの避難が必要です。以下を参考に、ハザードマップで自宅の浸水深を確認し、「立ち退き避難」が必要か、それとも自宅の2階などへの「垂直避難」が可能かを、あらかじめ確認しておきましょう。

自宅の位置の浸水深に応じた避難対応		
自宅の位置の浸水深のイメージ	まだ周辺が浸水していない場合の避難	周辺が浸水してしまった場合の避難
5.0m 	立ち退き避難 3.0m以上の浸水深の場合、家屋の2階以上も浸水することが想定されますので、早めの避難を心がけてください。	自宅待機（垂直避難） とにかく住宅内で、2階などの高いところに避難。
3.0m 2階の床下に相当 	立ち退き避難 2.0m以上の浸水深の場合、想定外のことも考え、2階建ての住宅でも避難をしてください。	自宅待機（垂直避難） とにかく住宅内で、2階などの高いところに避難。
2.0m 1階の床の高さに相当 	自宅待機（垂直避難） 2.0m未満の浸水深の場合、2階建ての住宅は自宅の2階に垂直避難。 <small>※過去に浸水した住宅や、洪水で家屋が流されるおそれのある区域では、自宅内での避難は危険です。できるだけ早く、安全な場所へ「立ち退き避難」してください。</small>	
0.5m		

※すでに周囲が浸水している場合は、無理に外へ避難しないでください。目安として、水の深さが20センチを超えると、歩いての避難はとても危険です。やむを得ず水が10センチ程度ある中を移動する場合は、用水路や側溝に落ちないように、棒などで足元を確かめながらゆっくり進みましょう。また、車での避難も危険です。水が10～30センチほどでブレーキが効きにくくなり、30センチ以上になるとエンジンが停止するおそれがあります。

③日頃から、防災気象情報をキャッチしよう！（5ページ参照）

<p>キキクル（危険度分布）</p> <p>キキクル（危険度分布）は、気象庁が発表している防災気象情報で、大雨による土砂災害・浸水害・洪水害の危険度を地図上で色分けして示すものです。雨量の観測データや今後の雨の予測をもとに、災害が発生する危険度の高まりをリアルタイムで確認できるため、早めの避難判断に役立つ情報です。</p> 	<p>河川水位（秋田県河川砂防情報システム）</p> <p>町内河川には6か所に水位計が設置されており、河川水位を確認することで、早めの避難判断に役立てることができます。町が定めている避難情報の判断の目安となる以下の水位を、参考にしましょう。</p> 
--	--

④河川水位に対する避難指示等の判断の目安を知ろう！

町が定めている避難指示などの判断の目安を知ること、早めの避難準備や行動につなげることができ、また、この目安は、自主防災組織や町内会などが、地域の実情に応じた避難ルールを考える際の参考にもなります。町で定めている、河川の水位に対する避難指示等の判断の目安は、以下のとおりです。

警戒レベル	皆さんに行動を促す情報	久保水位観測所の発令目安の水位	黒土水位観測所の発令目安の水位	住民の皆さんがとるべき行動
5	緊急安全確保	3.4 m以上	3.0 m以上	すでに災害が発生している、または差し迫っている状況。避難所への移動が危険な場合は、その場で命を守る行動をとる。（自宅の上階、斜面や川から離れた部屋への移動など）
4	避難指示	3.4 m (2.6 m)	(1.9 m)	速やかに安全な場所へ避難する。ただし、避難場所までの移動が危険な場合は、無理に移動せず、近くの安全な場所や、自宅内の2階以上など、より安全な場所へ避難する。
3	高齢者等避難	3.1 m (2.6 m)	(1.1 m)	高齢者等の避難に時間を要する人とその支援者は避難する。その他の人は、避難の準備をする。

※ 避難指示等と警戒レベルの関係については、2ページを参照。
 ※ 水位は避難情報発令の目安であり、実際の発令は、降雨状況や河川の状態などを総合的に判断して行われます。
 ※ () 内の水位は、今後の降雨状況によって発令の目安となる場合があります。

土砂災害への対応

本町における近年の大雨災害においては、河川の水位上昇や地盤の緩みの影響から、町内各地で冠水や土砂災害が発生し、道路の通行止めや住宅・店舗の浸水など、町民の生活に大きな影響が生じました。

近年は、大雨が短時間に集中する傾向が強まり、土砂災害の発生リスクが高まっています。

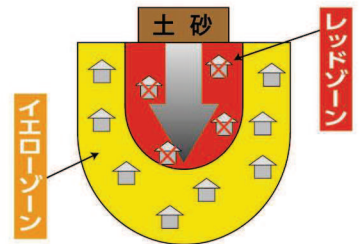
ここでは、土砂災害への具体的な対応をまとめています。

①まずは、土砂災害の危険な場所を知る！

危険箇所内の重要性の高い箇所について

土砂災害防止法に基づき、秋田県では調査を行い、土砂災害のおそれがある場所について、危険性の程度に応じて「土砂災害警戒区域」や、特に危険性が高い「土砂災害特別警戒区域」を指定しています。

土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン)	建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域
土砂災害 警戒区域(イエローゾーン)	土砂災害のおそれがある区域



■がけ崩れ

急な斜面が崩れ落ちる。

前兆現象

斜面に割れ目が見える、水が湧き出る。小石がパラパラ落ちてくる、樹木の根が切れるなどの音。

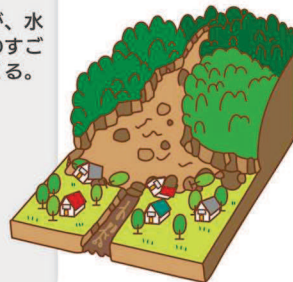


■土石流

山から崩れた土や石が、水と一緒に、ものすごい勢いで流れ下ってくる。

前兆現象

土や木の葉が腐ったような異様なにおい。雨が降り続けているのに川の水位が下がる。普段聞きなれない山鳴り。川の流れに流木が混ざる。



■地すべり

やや傾斜のゆるい斜面が、広い範囲にわたってかたまりのまま動く。

前兆現象

斜面に割れ目が見える、水が湧き出る。家屋などの構造物に亀裂が入った。



前兆現象が見られたら土砂災害警戒区域の外への避難が必要です。

②次に、土砂災害ハザードマップで自宅の位置をチェック！

19ページからのハザードマップで、自宅やその周辺が「土砂災害警戒区域(イエローゾーン)」や「土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)」に該当していないかを確認しましょう。これらの区域にお住まいの方は、町から土砂災害に関する「避難指示」等が発令された場合、立ち退き避難が必要となります。

③日頃から、防災気象情報をキャッチしよう！

レベル3 土砂災害警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル5 土砂災害特別警報	土砂キキクル(危険度分布)
今後の雨の状況により、数時間以内に土砂災害の危険が高まり、レベル4(避難が必要な状況)に移行するおそれがある段階を示す情報です。雨が続いて地盤がゆるみ、土砂災害が起こりやすくなると予測されている状態です。	土砂災害が発生するおそれが非常に高く、危険な場所からの避難が必要な段階を示す情報です。いつ土砂災害が起きてもおおかしくない状況であり、命を守るため、ためらわずに避難行動を取ることが必要です。	重大な土砂災害が発生するおそれが極めて高い場合に発表される、最も危険度の高い情報です。すでに災害が発生、切迫している可能性が高く、命を守るための最善の行動を取る必要がある段階です。	無色(今後の情報等に留意)…6時間先までレベル2土砂災害注意報基準未滿 黄色(注意)…6時間先までにレベル2土砂災害注意報基準に到達 赤色(警戒)…3時間先にレベル4土砂災害危険警報基準に到達 紫色(危険)…2時間先までにレベル4土砂災害危険警報基準に到達 黒色(災害切迫)…実況値でレベル5土砂災害特別警報基準に到達

④土砂災害に対する避難指示等の判断の目安を知ろう！

町が定めている避難指示などの判断の目安を知っておくことで、早めの避難準備や避難行動につながります。また、この目安は、自主防災組織などが地域に合った避難ルールを考える際の参考にもなります。

町の土砂災害に対する避難指示などの判断の目安は、次のとおりです。

警戒レベル	皆さんに行動を促す情報	発令の判断の目安	住民の皆さんがとるべき行動
5	緊急安全確保	土砂災害特別警報が発令されるなど、土砂災害がすでに発生している、または発生が切迫していると判断される場合。 土砂キキクルが【黒色】	避難場所への移動にこだわらず、その時点で最も安全な行動(建物内の安全な場所への移動など)を取り、命を守る行動を最優先する。
4	避難指示	土砂災害危険警報が発令されるなど、大雨により地盤がゆるみ、土砂災害が発生するおそれが非常に高いと判断される場合や土砂災害の前兆現象が見られた場合。 土砂キキクルが【紫色】	危険な場所から速やかに避難する。避難場所への移動が危険な場合は、近くの安全な場所や、自宅内の斜面から反対側の2階などへ避難する。
3	高齢者等避難	今後の雨の状況により、数時間以内に警戒レベル4に達するおそれがあると予測される場合。 土砂キキクルが【赤色】	高齢者や障がいのある方、乳幼児のいる家庭など、避難に時間を要する方は避難を開始する。その他の方は、避難の準備を整え、いつでも行動できる準備をする。

※避難情報と警戒レベルの関係については、2ページを参照してください。

※避難指示等は、土砂キキクル(危険度分布)などを踏まえ、危険性が高まっている地区を対象に、状況に応じて段階的に発令されます。

火災への対応 火災発生!そんなときどうする

初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1

早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求め。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2

早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。



火元別初期消火のコツ

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけると石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火を。

衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すの方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

風呂場

風呂場で火災に気づいても、あわてて戸を開けるのは危険です。戸を開けると空気が入り、火が強くなるおそれがあります。炎が小さく、天井や壁に燃え移っておらず、電気設備が原因でない場合に限り、消火器で消火してください。水をかけると感電や延焼のおそれがあるため、絶対に行わないでください。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。

カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

3

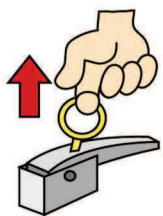
早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。



消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかけた上に引き抜く。



ホースをはずして火元に向ける。



レバーを強く握って噴射する。

消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。火元にはまともに正対しないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



火災予防が一番!!

火災警報器の設置義務化

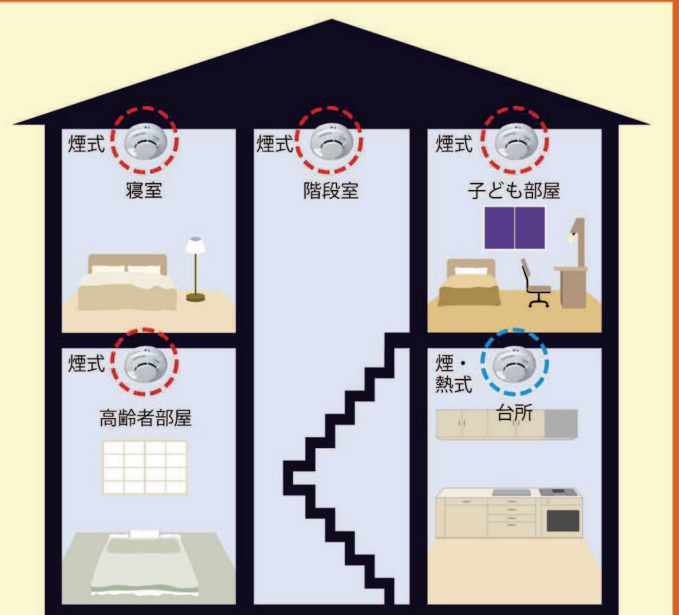
平成16年6月の消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。

今後、更に高齢化が進む中で、火災による死傷者を無くすために必ず設置しましょう。ご不明な点は、五城目消防署まで。

火災警報器の設置場所

- 寝室…すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段…1階以外に寝室がある場合の階段に設置が必要です。
- 台所・仏間…設置義務はありませんが、火を取扱うような場所にも設置するとより安全です。

※注意:設置から10年が経過したものは、電池切れや電子部品が劣化していることがあるため、本体の交換をおすすめしています。また、いざという時に作動しなかったという事がないように定期的に点検をしましょう。



住宅内取付位置図

地震への対応

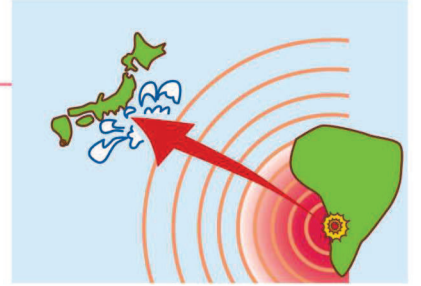
地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保 (手近な座布団などで頭を保護)
- 火を消せるときは、すぐに火を消す
- あわてて戸外に飛び出さない



揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火 (ガスの元栓、コンセント)
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認 (特に乳幼児や病人、高齢者などの安全を確保する)
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 非常時持出品を準備する



3分

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- | | | |
|-------------|------------------------------------|------------------------|
| ●隣近所に声をかけよう | ●要配慮者の安全確保 | ●隣近所で助け合う |
| | ●行方不明者はいないか | ●ケガ人はいないか |
| ●出火防止 初期消火 | ●漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める | |
| | ●消火器を使う | ●バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく |

5分

ラジオなどで正しい情報を

- 大声で知らせる
- 災害・被害情報の収集
- 町内会、自主防災組織の中で情報を共有
- 余震に注意する
- 避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する



10分
数時間
3日

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 救出・救護活動
- 無理な行動はやめよう
- 各町内会等は、被害を確認した時点で、速やかに町へ報告をする。
- 助け合いの心が大切
- 壊れた家に入らない

地震の時には…

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 裸足で歩き回らない (ガラスの破片などでケガをする)。



路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

通電火災に注意

通電火災とは、大地震や台風等での浸水害などの時に、停電後、電気機器等が転倒・落下・破損又は漏電等の状態で、停電が復旧した際に起こる火災です。通電火災を防ぐためには、以下のように行動してください。

【避難する時】避難するときは電気ブレーカーを切る。

【再通電時】配線やコードを含め電気機器等が破損していないか、燃えやすいものが近くはないかなど、十分に安全を確認してから電気機器を使用。しばらく異常がないか見守る。

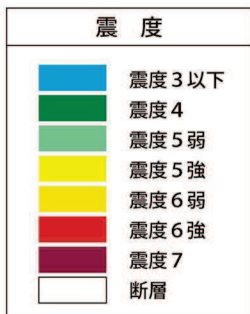
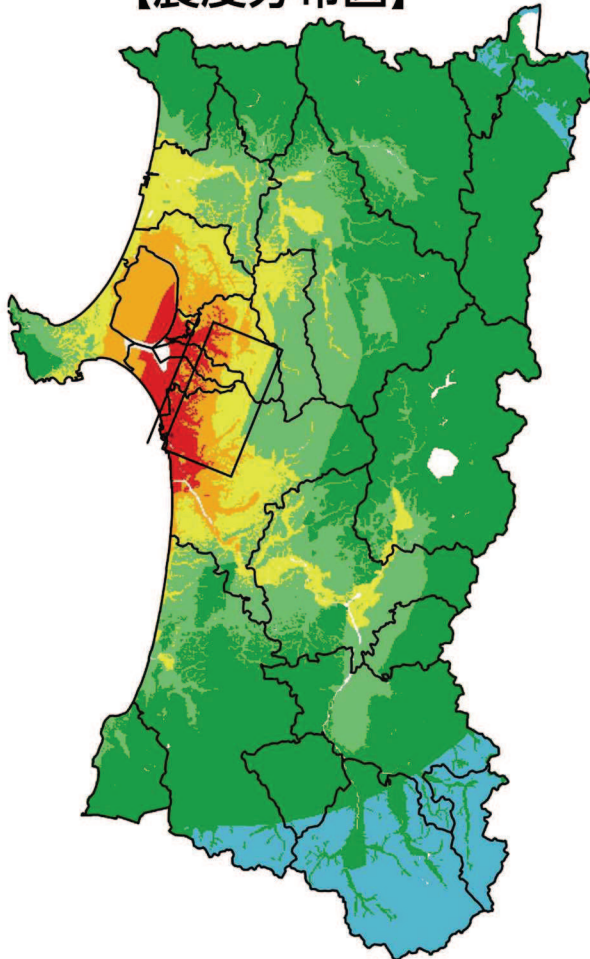


地震防災マップ

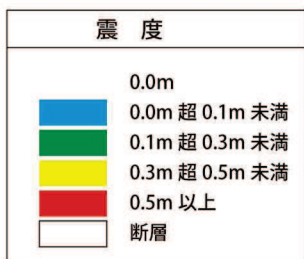
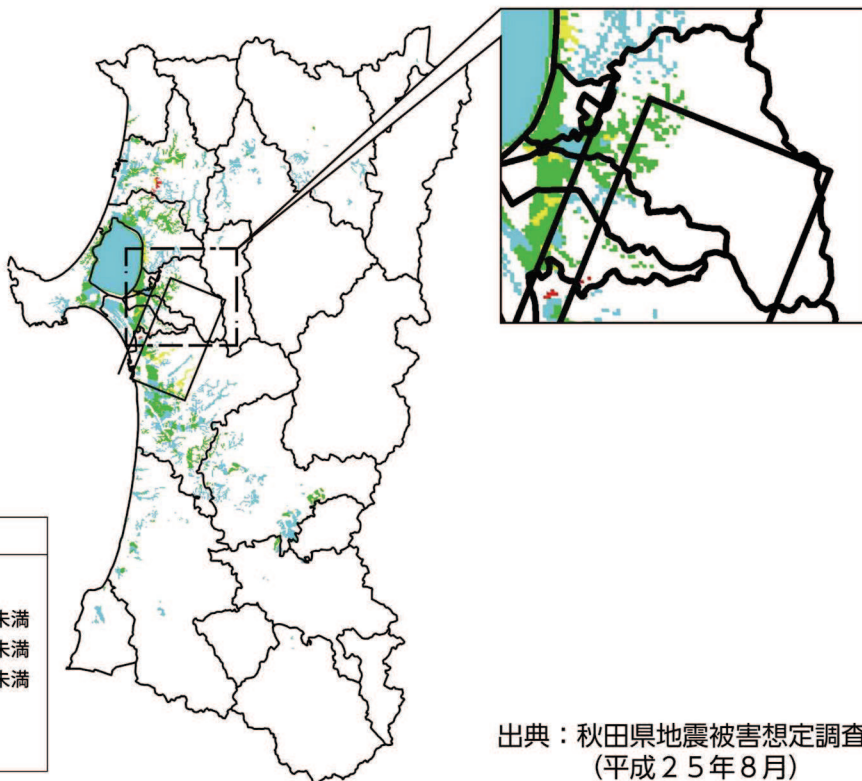
町民等が、地震防災対策を自らの問題・地域の問題として意識し、地震防災対策に積極的に取り組んでいただけるよう、町で発生のおそれのある最も大きな地震災害について、地震の概要と、主な被害想定を示しています。

この被害想定は、一定の条件に基づいた想定であり、地震の規模・発生時刻・建物の耐震化状況等により増減します。

天長地震モデル※注 【震度分布図】



【液状化による沈下量】



出典：秋田県地震被害想定調査
(平成25年8月)

五城目町の被害想定

①マグニチュード	7.2
②最大震度	6強 県内最大7 (秋田市・潟上市)
③建物被害予測	全壊2069棟 半壊2089棟
④火災被害予測	炎上出火件数4件 焼失棟数174棟
⑤人的被害予測	死者107人 負傷者514人 (うち重傷者数119人)
⑥最大避難者数	約4500人
⑦必要となる応急仮設住宅	1038棟
⑧道路被害	液状化と建物の被災倒壊により、20%が通行止め
⑨上水道被害	被害180箇所 断水約6600人
⑩下水道被害	被害約11% 支障約700人
⑪電力被害	停電約83%(約3800世帯)

※注：天長地震とは、実際に西暦830年(平安時代)に、「北口断層(本町の直下にも存在する)」が動いて起こった地震です。現代社会において、再び同じ地震が発生した(冬午前2時、ただし冬午後6時に発生した被害が大きい場合は、そのデータを一部使用)場合の被害想定がこのようなになっています。断層は全て発見されている訳ではなく、また断層地震は数千年の周期で起こると言われており、本町でもいつ発生するかわかりません。

震度と揺れについて

震度とは、地震の揺れの強さを10段階で示した指標です。
 以下は、震度ごとに起こる現象や被害の目安を示したものです。

気象庁作成「その震度どんなゆれ？」より引用

<p>0</p>  <p>【震度0】 人は揺れを感じない。</p>	<p>1</p>  <p>【震度1】 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。</p>	<p>2</p>  <p>【震度2】 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。</p>	<p>3</p>  <p>【震度3】 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。</p>
<p>4</p>  <p>【震度4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ほとんどの人が驚く。 ● 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ● 座りの悪い置物が、倒れることがある。 	<p>6弱</p>  <p>耐震性が高い 耐震性が低い</p>		<p>【震度6弱】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 立っていることが困難になる。 ● 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ● 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ● 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
<p>5弱</p>  <p>【震度5弱】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ● 棚にある食器類や本が落ちることがある。 ● 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。 	<p>6強</p>  <p>耐震性が高い 耐震性が低い</p>		<p>【震度6強】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 ● 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。 ● 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。
<p>5強</p>  <p>【震度5強】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物につかまらなさと歩くことが難しい。 ● 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。 ● 固定していない家具が倒れることがある。 ● 補強されていないブロック塀が崩れることがある。 	<p>7</p>  <p>耐震性が高い 耐震性が低い</p>		<p>【震度7】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 ● 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ● 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

この表は、ある震度が観測されたときに、その周辺で発生するゆれなどの現象や被害の目安を示したものです。

詳しい解説は以下の気象庁ホームページに掲載しています。

気象庁震度階級関連解説表 <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/kaisetsu.html>

津波への対応

本町は海に面していませんが、津波浸水想定区域の検討で「地震により八郎湖堤防が沈下する（75%沈下）」などの条件により、馬場目川河口の大川地区（通称：地先「ちさき」）の農地・道路が津波浸水想定区域（最大1～2m）になっています。詳しくは、次ページの津波ハザードマップでご確認ください。

ここでは、「津波」への具体的な対応について記載します。

① まずは、津波の危険な場所を知る！

次ページのハザードマップで、津波の浸水想定区域を確認しましょう。

津波は、馬場目川を遡上するおそれがあるため、河川周辺だけでなく、低い土地では浸水の危険があります。

仮に、農作業や外出などで津波の危険がある場所に居合わせ、地震の後に津波に関する「避難指示」が発令された場合は、ためらわず、すぐに安全な場所へ避難してください。

② 津波警報・注意報と、とるべき行動

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現		
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難タワーなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
	10m (5m<高さ≤10m)			
	5m (3m<高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	ここなら安全と思わず、できるだけ高い場所へ避難しましょう。	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m (20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)		海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。

※津波警報等の発表時には、各区分の**高い方の値**を、予想される津波の高さとして発表します。

(※気象庁ホームページより大部分を抜粋)

③ 避難する際の注意

津波注意報でも、海辺や川べりには近づかないようにしましょう。



避難の際にはご近所にも声をかけあい、地域で協力し合う避難を心がけましょう。



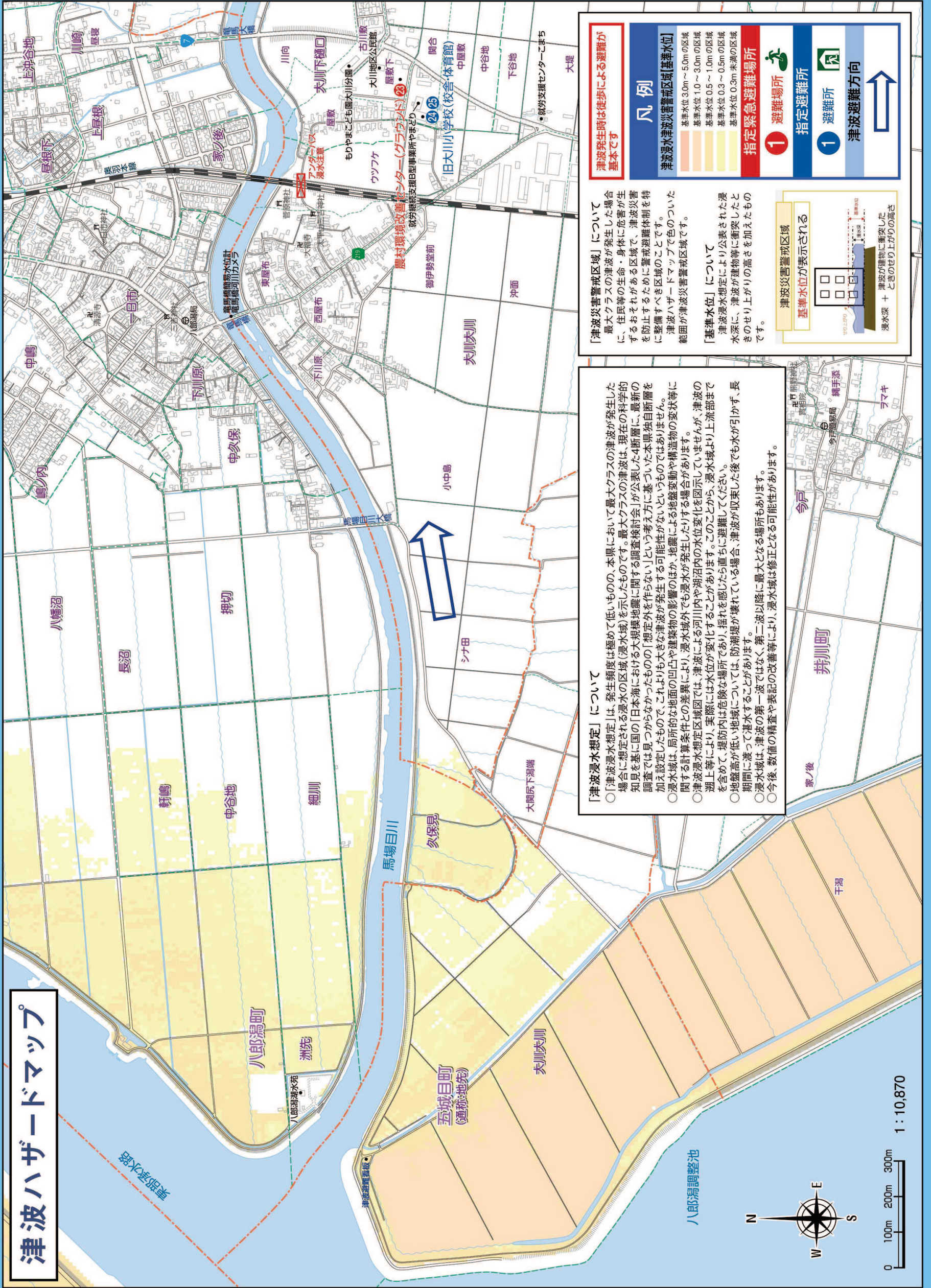
陸上に遡上した津波も早いので、津波を見てからでは逃げられません。



出典：首相官邸ホームページを加工して作成

津波避難場所として、最寄りの「農村環境改善センター（グラウンド）」および「旧大川小学校（校舎・体育館）」を指定しています。日頃から、避難経路や避難場所を確認しておきましょう。

津波ハザードマップ



「津波浸水想定」について

- 「津波浸水想定」は、発生頻度は極めて低いものの、本県において最大クラスの津波が発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)を示したものです。最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に国の「日本海における大規模地震に関する調査検討会」が公表した4断層に、最新の調査では見つからなかったもの「想定外を作らない」という考え方に基いた本県独自断層を加え設定したもので、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したりする場合があります。
- 津波浸水想定区域図では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の湖上等により、実際には危険な場所であり、揺れを感じたら直ちに避難してください。
- 地盤高が低い地域については、防潮堤が壊れている場合、津波が収束した後でも水が引かず、長期間に渡って浸水することがあります。
- 浸水域は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 今後、数値の精査や表記の改善等により、浸水域は修正となる可能性があります。

「津波災害警戒区域」について

最大クラスの津波が発生した場合に、住民等の生命・身体に危害が生ずるおそれがある区域で、津波災害を防止するために警戒避難体制を整備すべき区域のことです。津波ハザードマップで色のついている範囲が津波災害警戒区域です。

「基準水位」について

津波浸水想定により公表された浸水深に、津波が建物等に衝突したときのせり上がりの高さを加えたものです。

津波発生時は徒歩による避難が基本です

凡例

- 基準水位 3.0m ~ 5.0m の区域
- 基準水位 1.0 ~ 3.0m の区域
- 基準水位 0.5 ~ 1.0m の区域
- 基準水位 0.3 ~ 0.5m の区域
- 基準水位 0.3m 未満の区域

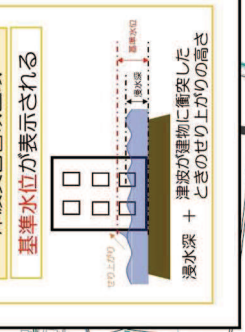
指定緊急避難場所

1 避難場所

指定避難所

1 避難所

津波避難方向



雪害への対応

本町では、過去に記録的な大雪により、交通障害や建物被害、除雪作業中の事故など、多くの雪害が発生しています。特に、平成18年1月の記録的な大雪（観測史上1位の積雪137cm）では、腰の高さまで雪が積もり、町内各地で交通が大きく乱れました。

この大雪により、人的被害のほか、家屋などの被害30件、公共施設14件、農業施設等25件などの被害が発生しました。ここでは、雪害への具体的な対応をまとめています。

特に注意すべき防災気象情報

大雪や暴風雪が予想される場合、気象庁から防災気象情報が発表されます。

これらの情報が発表されたときは、不要不急の外出や屋外作業を控え、身の安全を最優先に行動してください。

暴風雪特別警報

数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合に発表されます。

大雪特別警報

数十年に一度程度の降雪量となる大雪が予想される場合に発表されます。

雪崩注意報

積雪や気温の変化などにより、雪崩が発生するおそれがある場合に発表されます。

除雪作業について

県内では、雪下ろしや除雪作業中の事故が毎年発生しており、高齢者や一人で作業している際の事故が多く見られます。事故を防ぐため、次の点に注意してください。

(1) 共通の注意事項

- ① 猛吹雪や大雪など、悪天候時の作業は控えましょう。
- ② 滑りにくい靴・動きやすい服装で作業しましょう。
- ③ 携帯電話などの連絡手段を確保してください。
- ④ できるだけ2人以上で作業し、やむを得ず一人で行う場合は、家族や近所の方に声をかけてから作業しましょう。



(2) 雪下ろし作業の注意

- ① 暖かい日は雪が緩み、特に転落の危険が高くなります。
- ② 低い屋根でも油断せず、ヘルメットや命綱などの安全装備を使用しましょう。
- ③ はしごは確実に固定し、作業中は軒下を歩かないようにしましょう。



(3) 除雪機を使用する場合

- ① 使用前に点検を行い、異常がないか確認しましょう。
- ② 周囲に人(特に子ども)がいる場合は使用しないでください。
- ③ 雪詰まりの除去は、必ずエンジンを停止してから行いましょう。

地域の防災力を高める「自助」・「共助」・「公助」

自然災害による被害を最小限に抑えるためには、一人ひとりが命を守る「自助」、地域で助け合う「共助」、行政による支援の「公助」の取り組みが重要です。

過去の大きな災害では、ライフラインや道路の寸断、救助要請の集中などにより、消防や警察などの「公助」がすぐには届かない状況がありました。大規模な災害時には行政による支援（公助）に限界があります。

そのため、一人ひとりが備え、地域で支え合うことが、地域全体の防災力向上につながります。

自主防災組織は、災害時の声かけや安否確認、避難の手助けなど、地域に身近な支え合いを担う重要な存在です。

町では、自主防災組織の設立や継続的な活動を支援し、地域の防災力向上に取り組んでいます。

70町内会中35町内で結成済み 令和8年3月31日現在

わが家の防災対策&チェック

家の中の安全対策

事前に準備できているか、チェック✓しましょう。

1

□ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。



3

□ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



2

□ 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

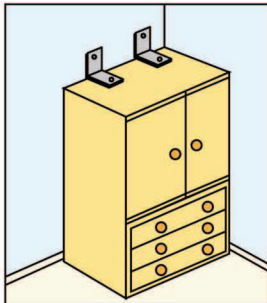
玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

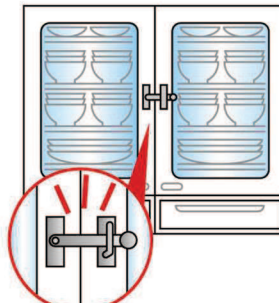
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



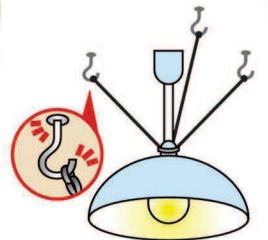
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



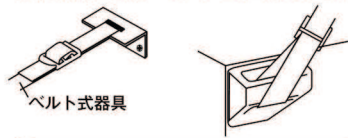
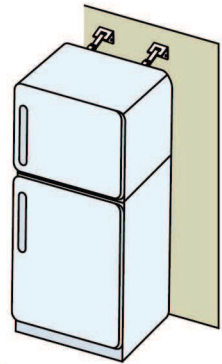
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。



冷蔵庫

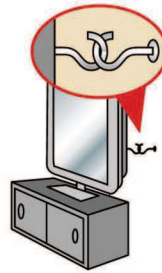
転倒防止用ベルトで固定します。



冷蔵庫裏面の取手にベルトを通して、なるべく壁に寄せて固定する。

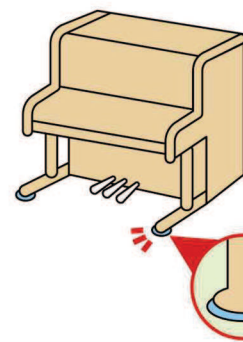
テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上など、高い位置はさける)。



ピアノ

転倒防止専用金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

事前に準備できているか、チェック✓しましょう。

□ 屋根

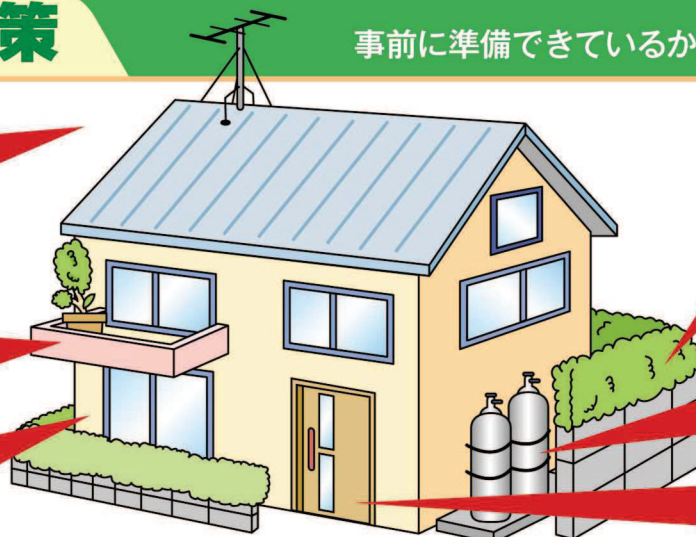
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

□ ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

□ 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。



□ ブロック塀・門柱

土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

□ プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

□ 非常口の確保

台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう

平時に確認

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？ **必ず取組みましょう**

ハザードマップ*で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

*ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市区町村からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として※、**立退き避難**（自宅の外に避難）が必要です。

例外

※浸水の危険があっても、
①洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側である
②浸水する深さよりも高いところにいる
③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある場合は**屋内安全確保**（自宅に留まり安全確保すること）も可能です。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル3 高齢者等避難が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう（日頃から相談しておきましょう）

いいえ

警戒レベル3 高齢者等避難が出たら、市区町村が指定している**指定緊急避難場所**に避難しましょう

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル4 避難指示が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう（日頃から相談しておきましょう）

いいえ

警戒レベル4 避難指示が出たら、市区町村が指定している**指定緊急避難場所**に避難しましょう

ハザードマップの見方

もっと詳しく知りたい人向け

次の3つが確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

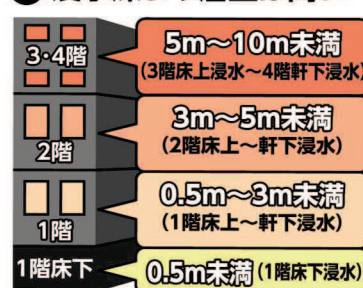
① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない（入っていると…）



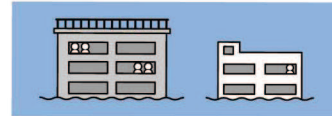
流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります

地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります

② 浸水深より居室は高い



③ 水がひくまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分（十分じゃないと…）
水、食糧、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります



指定緊急避難場所・指定避難所一覧

指定緊急避難場所とは

指定緊急避難場所は、災害が発生した場合、または発生するおそれがある場合に、命を守るために一時的に避難する場所です。洪水、土砂災害、地震など、災害の種類ごとに安全が確保できる場所を指定しています。危険が差し迫っているときは、指定緊急避難場所に限らず、近くの安全な場所へ避難することが最優先となります。

指定避難所とは

指定避難所は、災害の危険があり避難した方が、危険がなくなるまでの間、または災害により自宅に戻れなくなった場合に、一定期間滞在できる施設です。建物の構造や立地、周辺環境などについて、国の基準に基づき安全性を確認した施設を指定しています。災害の状況によっては、すべての指定避難所が同時に開設されるとは限りません。

福祉避難所とは

福祉避難所は、指定避難所での生活が困難な要配慮者の方（高齢者、障がいのある方、乳幼児など）のために設けられる避難所です。大規模な災害が発生し、災害救助法が適用される場合などに、必要に応じて開設される二次的な避難所です。

指定緊急避難場所・指定避難所一覧

地区名	No	名称	所在地（五城目町）	掲載マップ	対象とする異状な現象ごとの指定緊急避難場所					指定避難所
					洪水	土砂災害	地震	津波	大規模火災	
五城目・馬川・森山	1	雀館運動公園	上樋口字堂社 75	2・6	×	○	○	—	○	
	2	昭辰こども園	高崎字中川原 11	2	×	○	○	—	○	
	3	町民センター	上樋口字堂社 75	6	○	○	○	—	○	○
	4	広域体育館	上樋口字堂社 75	6	○	○	○	—	○	○
	5	屋内温水プール	上樋口字堂社 75	2・6	○	○	○	—	○	○
	6	馬川地区公民館	高崎字前田 81	6	×	○	○	—	○	○
	7	五城目第一中学校	高崎字広ヶ野 200	2	○	○	○	—	○	○
	8	ターミナルパーク磯ノ目	字鶴ノ木 90-2	2	×	○	○	—	×	
	9	五城館	字鶴ノ木 89-1	2	●	○	○	—	×	○
	10	朝市ふれあい館	字下夕町 182	2	○	○	○	—	×	○
	11	もりやまこども園	字羽黒前 76-1	2	○	○	○	—	○	○
	12	矢場崎集会所	川崎字宮花 10-74	2	○	○	○	—	×	○
馬場目	13	町村農村公園	馬場目字町村 64-1	7	×	○	○	—	×	
	14	馬場目地区公民館	馬場目字蓬内台 117-1	7	○	○	○	—	○	○
	15	坊井地農村公園	馬場目字坊井地 86	8	○	○	○	—	×	
	16	杉沢交流センター 友愛館	馬場目字杉沢下台 59-1	8	○	○	○	—	○	○
富津内・内川	17	大手農村公園	内川黒土字千刈台 7	3	○	○	○	—	○	
	18	富津内地区公民館	内川黒土字千刈台 7	3	○	○	○	—	○	○
	19	旧富津内小学校跡地	富津内中津又字大台 7-1	4	○	○	○	—	○	
	20	中津又地区コミュニティセンター	富津内中津又字石動 44-1	4	○	○	○	—	○	○
	21	北北口山村広場	富津内中津又字高野 10-2	4	○	○	○	—	○	
大川	22	谷地中農村公園	大川谷地中宇堰添 11-2	6	○	○	○	—	○	
	23	農村環境改善センター（グラウンド）	大川下樋口字屋敷下 3-2	5	×	○	○	○	○	
	24	旧大川小学校（校舎）	大川下樋口字関合 13-1	5	●	○	○	○	○	○
	25	旧大川小学校（体育館）	大川下樋口字関合 13-1	5	●	○	○	○	○	○
	26	五城目高等学校	大川西野字田屋下 100	2・6	●	○	○	—	○	○


福祉避難所一覧


※「●」ただし、建物内まで浸水するおそれがある場合は、2階以上へ移動

No	名称	所在地（五城目町）	掲載マップ
1	特別養護老人ホーム広青苑	上樋口字樽沢 137	6
2	養護老人ホーム森山荘	上樋口字樽沢 187	6
3	湖東老健	大川西野字堤ノ内 1-1	6
4	グループホームすずめだて	高崎字雀館下川原 88-5	2
5	ハッピーライフあんど	西磯ノ目一丁目 2-50	2
6	介護センター福寿荘	字鶴ノ木 90-1	2
7	ショートステイおもてなし	富津内下山内字奈良崎 1-4	2
8	ショートステイかがやき	字石田六ヶ村堰添 135-1	2

指定緊急避難場所および指定避難所の記号について

実際の場所には以下の全国共通記号を用いた看板を設置しております。

指定緊急避難場所 

指定避難所 

大規模災害時の避難所の運営について

大規模な災害が起きたとき、避難所の運営を町職員だけで行うことは難しく、住民の皆さんの協力が欠かせません。避難所は、自主防災組織や町内会など、避難者を中心とした避難所運営委員会が主体となって運営し、町職員が支援する体制で行われます。町の総合防災訓練などに参加し、避難所運営訓練に取り組みましょう。

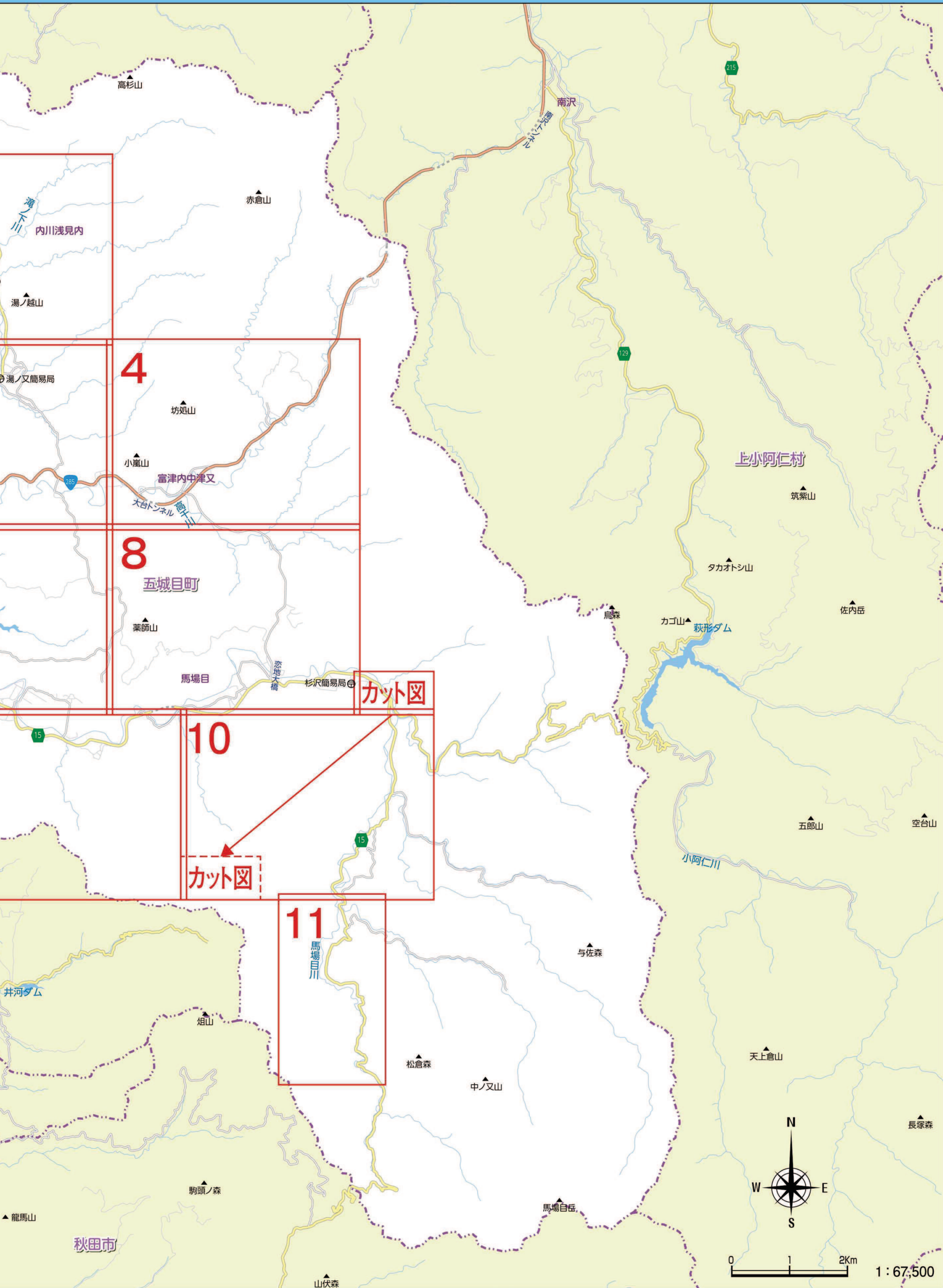
五城目町全体図



浸水想定について

21ページから41ページまでのハザードマップに示される浸水想定は、作成時点の地形状況等を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により河川が氾濫した場合の浸水状況をシミュレーションにより予測したものです。なお、このシミュレーションは支川の氾濫および内水による氾濫、地震などの複合的な災害が発生した場合等を考慮していませんので、浸水想定区域に指定されていない地域での浸水や想定される浸水深と実際の浸水深が異なる場合があります。

河川名	想定降雨量（最大規模）	作成主体	備考
馬場目川	流域全体に48時間総雨量457mm	秋田県	掲載している浸水想定は、それぞれ河川ごとに異なった条件で設定されており、複数の浸水想定が重なった箇所については、最も深い想定浸水深を記載しています。
富津内川	流域全体に24時間総雨量463mm		
内川川	流域全体に24時間総雨量526mm		
高千川	流域全体に24時間総雨量529mm		
滝ノ下川	流域全体に24時間総雨量529mm		
井川	流域全体に48時間総雨量624.8mm		



	1	
2	3	4

河川浸水想定凡例

- 浸水深5.0~10.0m未満


- 浸水深3.0~5.0m未満

- 浸水深2.0~3.0m未満


- 浸水深0.5~2.0m未満

- 浸水深0.5m未満




**家屋倒壊等氾濫想定区域
(河岸侵食) (氾濫流)**

- 
早期の立退き避難が必要な区域

過去の浸水実績

- 令和5年7月豪雨
における浸水範囲


土砂災害凡例

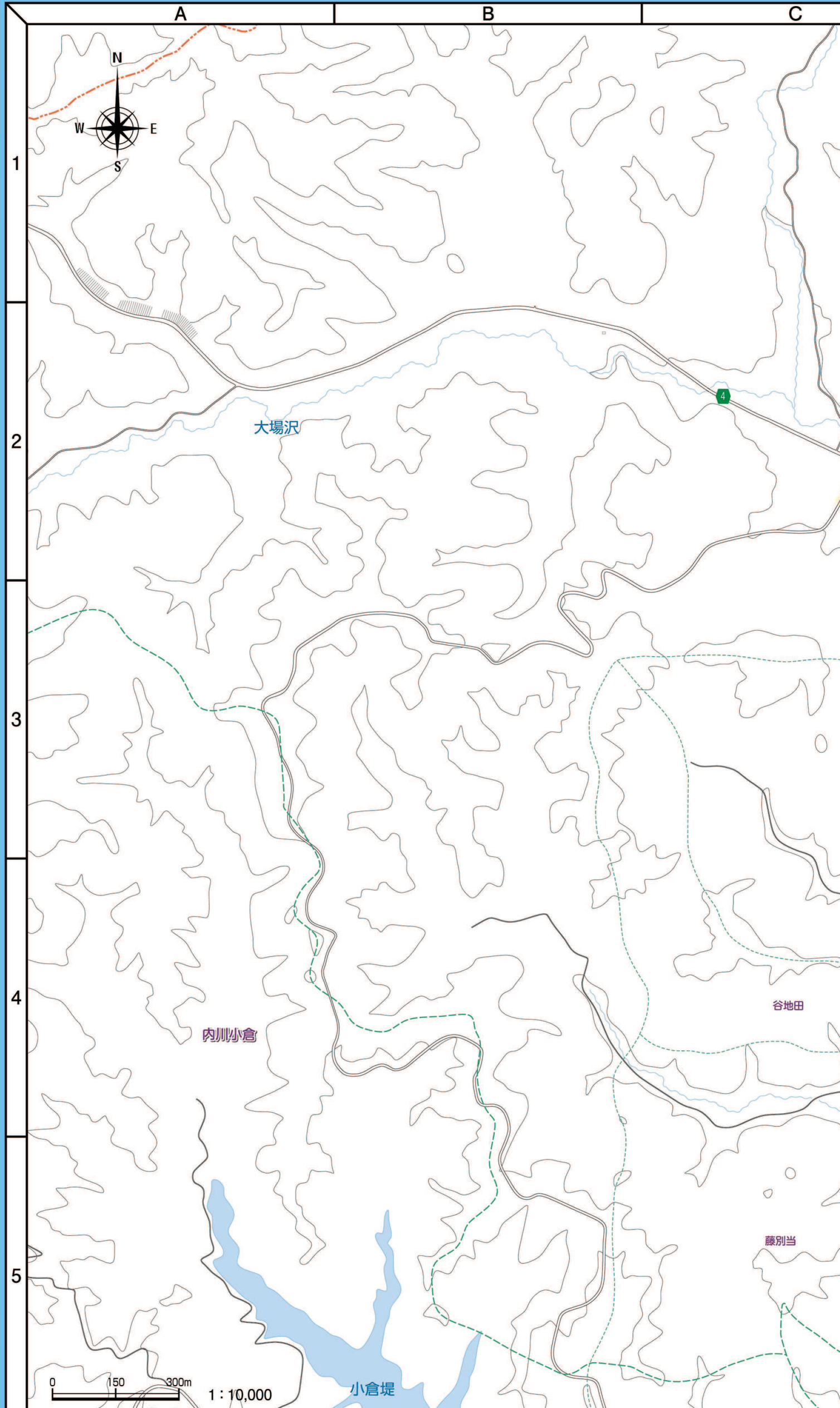
- 土砂災害
警戒区域
通称:イエローゾーン
危険が生じる
恐れのある区域

- 土砂災害
特別警戒区域
通称:レッドゾーン
著しい危険が生じる
恐れのある区域


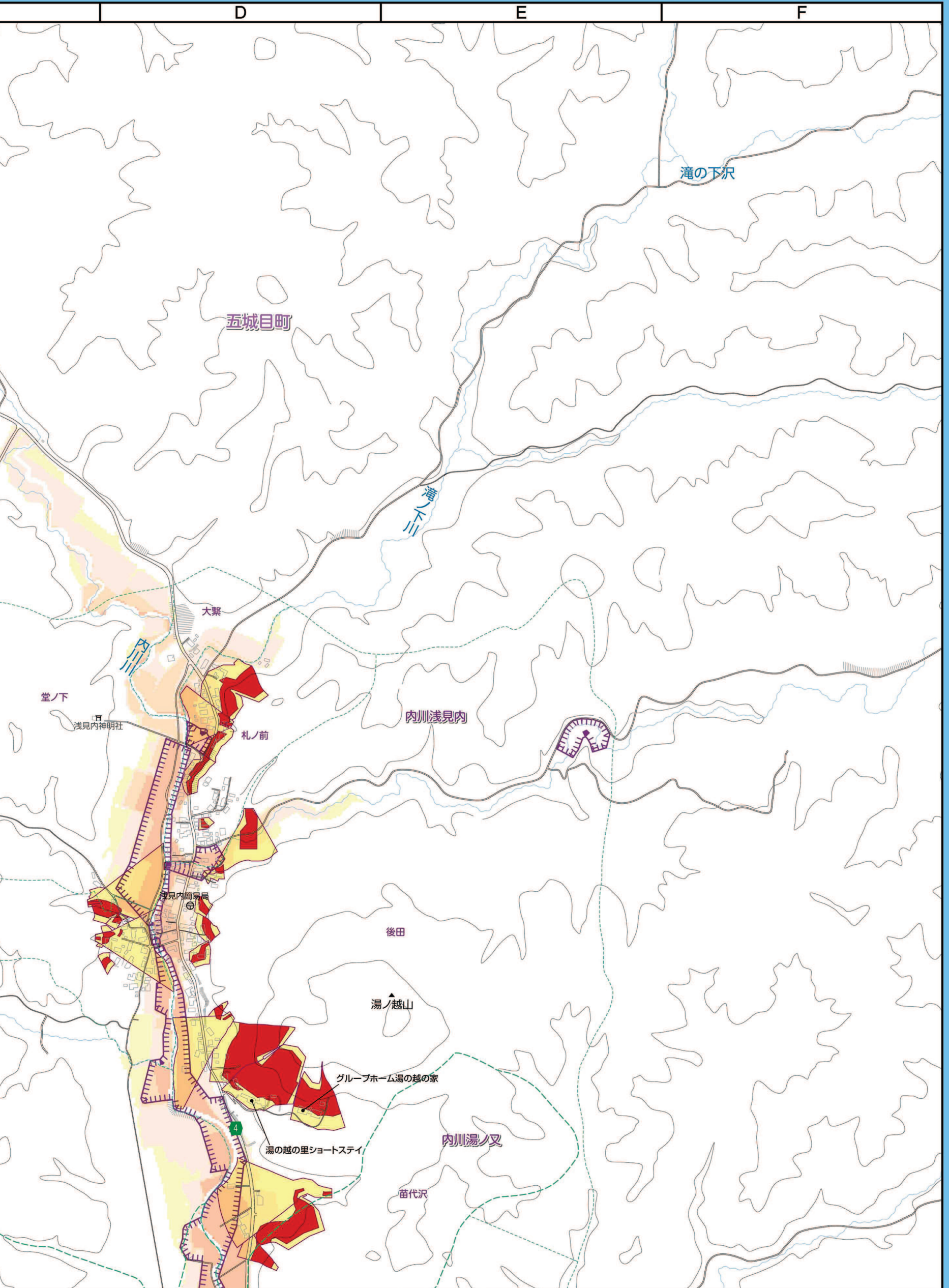
指定緊急避難場所

-  避難場所 

指定避難所

-  避難所 





		1
	2	3
5	6	7

河川浸水想定凡例

- 浸水深5.0~10.0m未満
- 浸水深3.0~5.0m未満
- 浸水深2.0~3.0m未満
- 浸水深0.5~2.0m未満
- 浸水深0.5m未満

家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸侵食) (氾濫流)

- 早期の立退き避難が必要な区域

過去の浸水実績

- 令和5年7月豪雨における浸水範囲

土砂災害凡例

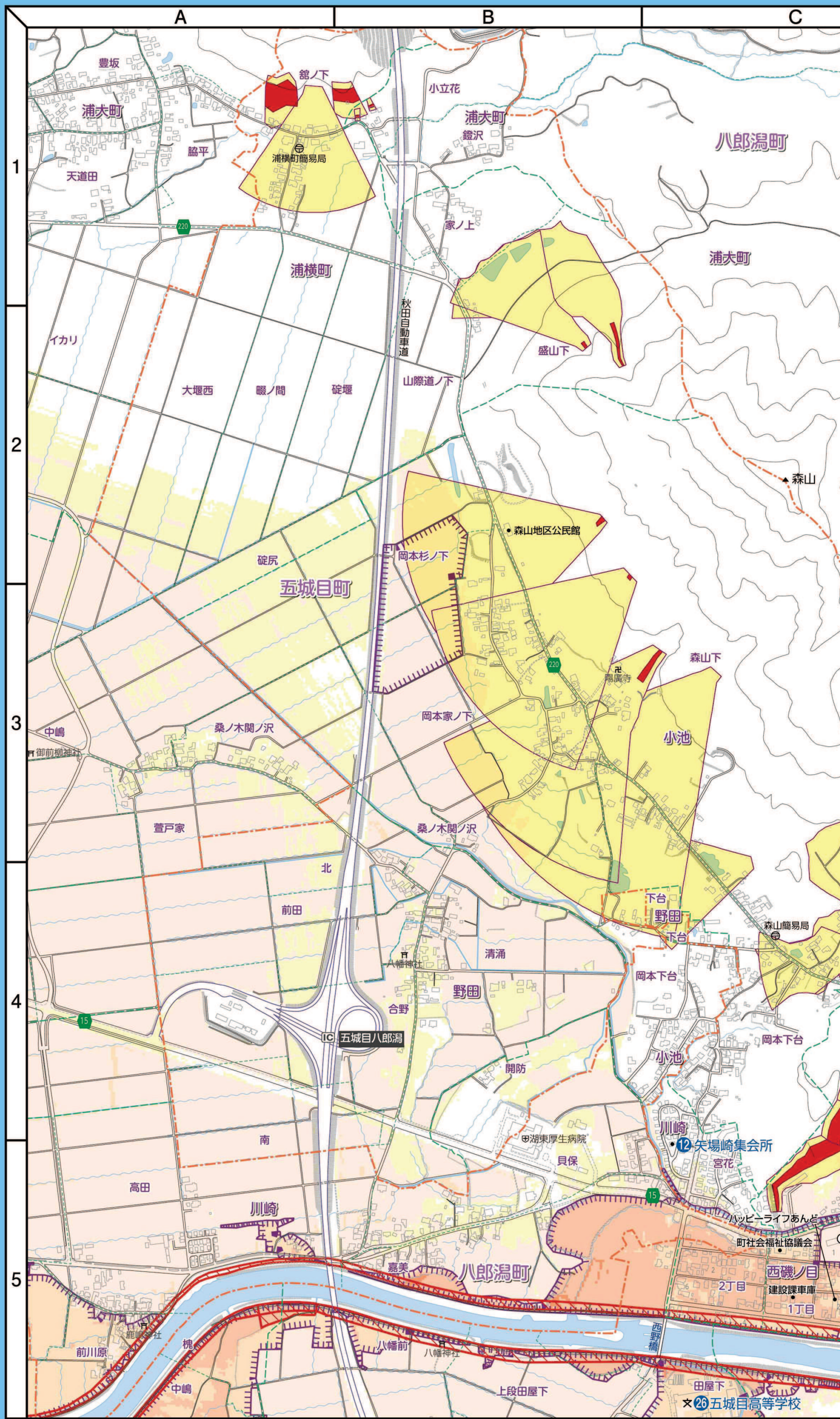
- 土砂災害警戒区域
通称:イエローゾーン
危険が生じる恐れのある区域
- 土砂災害特別警戒区域
通称:レッドゾーン
著しい危険が生じる恐れのある区域

指定緊急避難場所

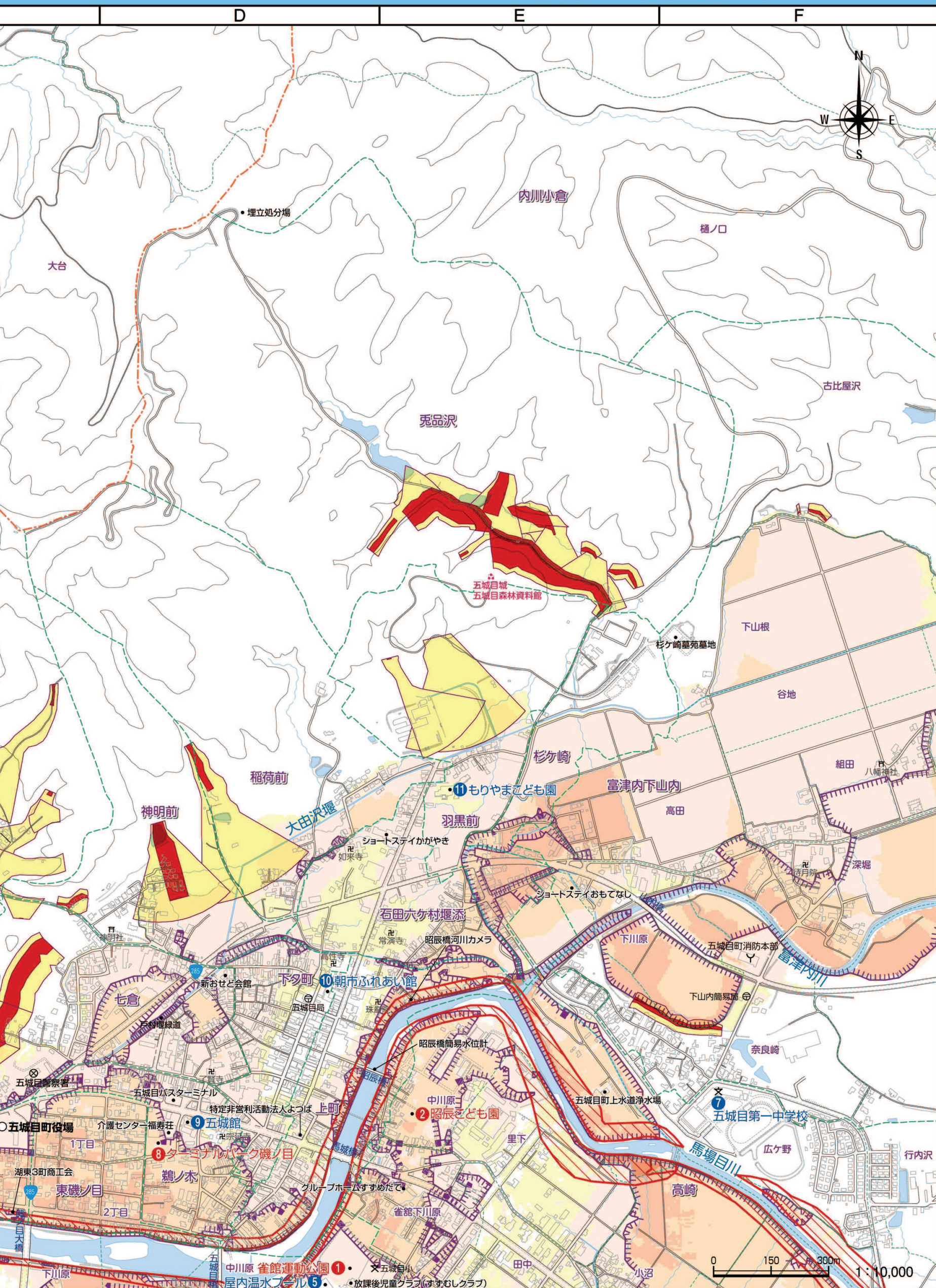
- 1 避難場所

指定避難所

- 1 避難所



洪水・土砂災害ハザードマップ2



	1	
2	3	4
6	7	8

河川浸水想定凡例

- 浸水深5.0~10.0m未満
- 浸水深3.0~5.0m未満
- 浸水深2.0~3.0m未満
- 浸水深0.5~2.0m未満
- 浸水深0.5m未満

**家屋倒壊等氾濫想定区域
(河岸侵食)(氾濫流)**

- 早期の立退き避難が必要な区域

過去の浸水実績

- 令和5年7月豪雨
における浸水範囲

土砂災害凡例

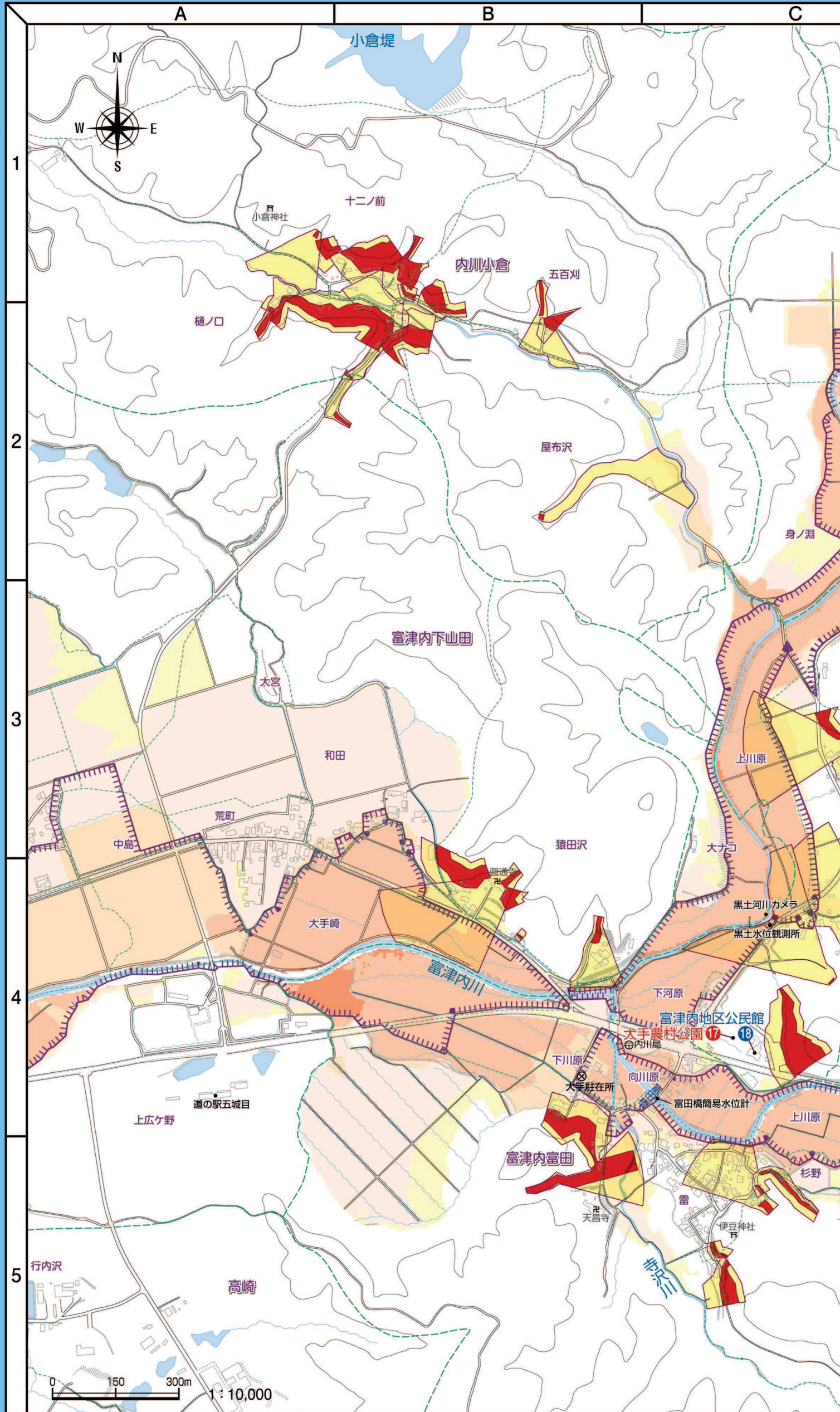
- 土砂災害
警戒区域
通称:イエローゾーン
危険が生じる
恐れのある区域
- 土砂災害
特別警戒区域
通称:レッドゾーン
著しい危険が生じる
恐れのある区域

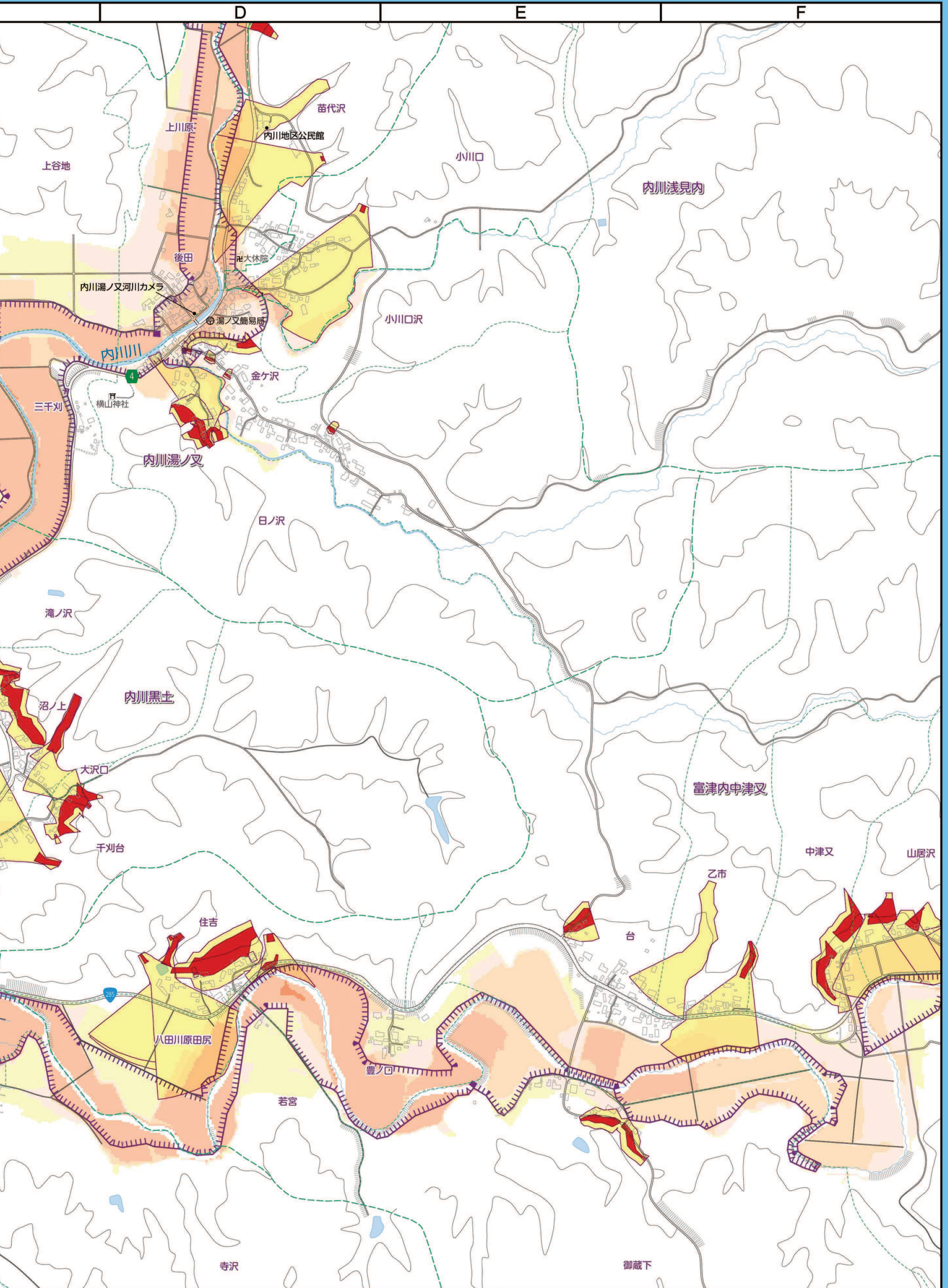
指定緊急避難場所

- 1 避難場所

指定避難所

- 1 避難所





1	
3	4
7	8

カット図

河川浸水想定凡例

- 浸水深5.0~10.0m未満
- 浸水深3.0~5.0m未満
- 浸水深2.0~3.0m未満
- 浸水深0.5~2.0m未満
- 浸水深0.5m未満

**家屋倒壊等氾濫想定区域
(河岸侵食)(氾濫流)**

- 早期の立退き避難が必要な区域

過去の浸水実績

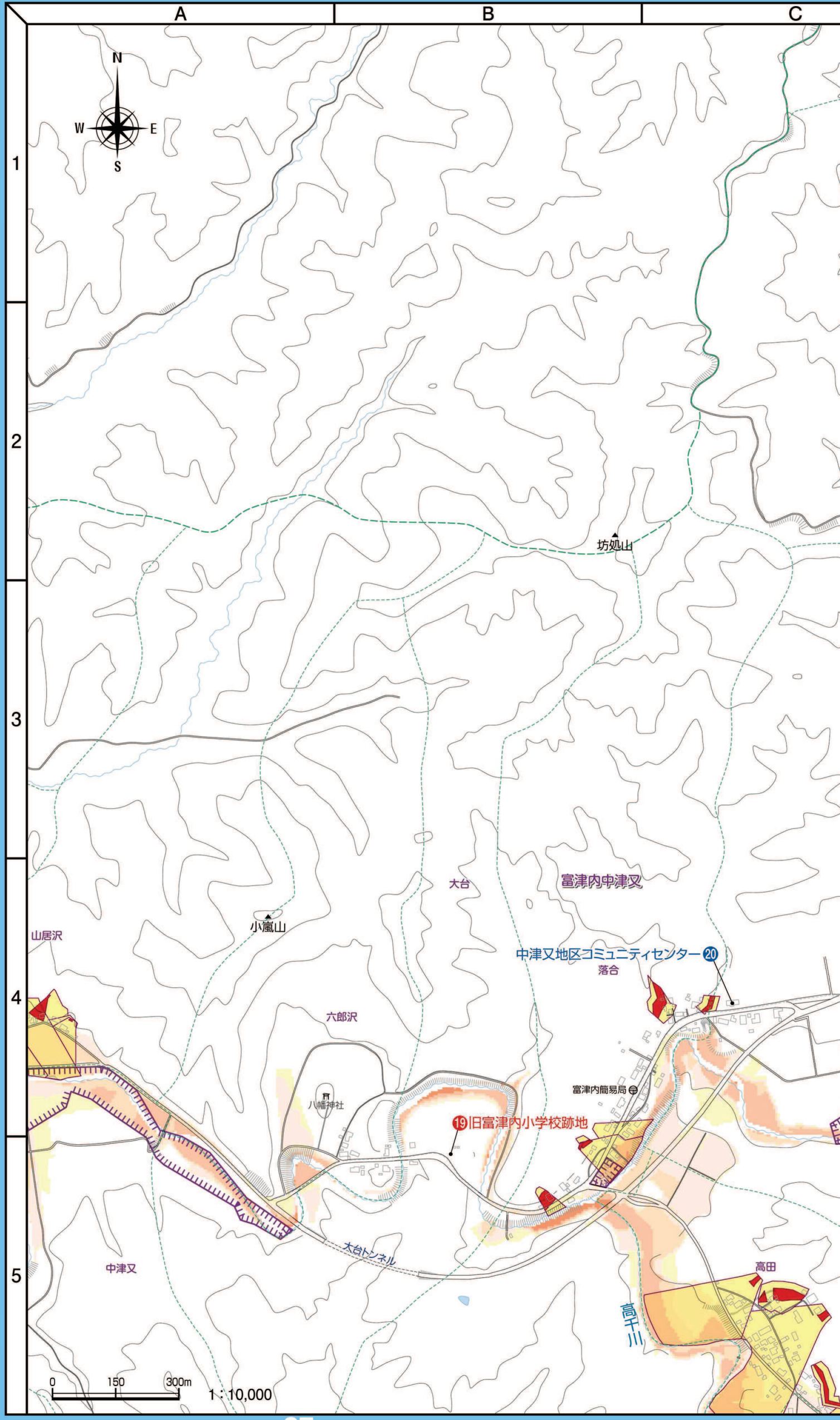
- 令和5年7月豪雨
における浸水範囲

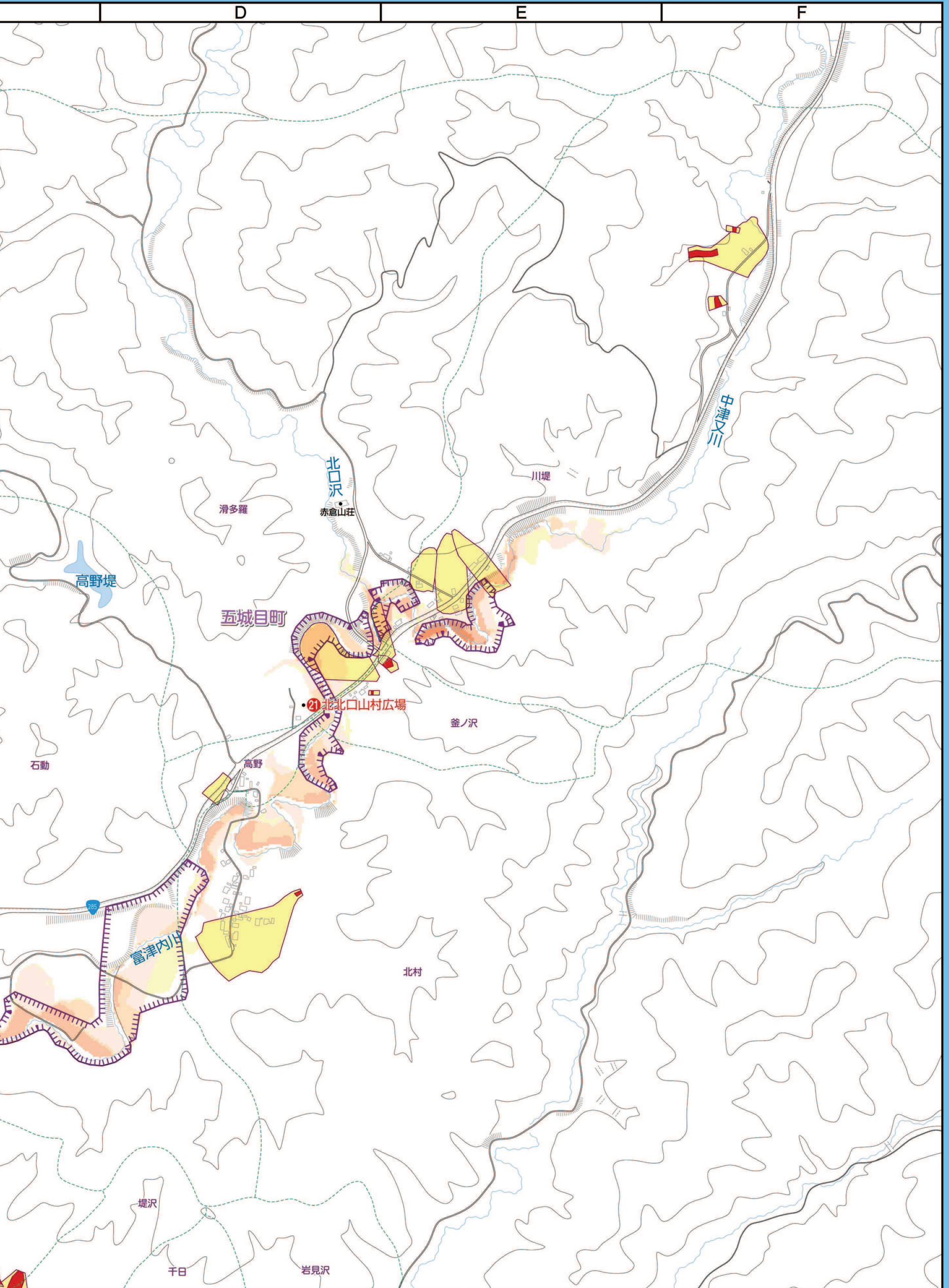
土砂災害凡例

- 土砂災害
警戒区域
通称:イエローゾーン
危険が生じる
恐れのある区域
- 土砂災害
特別警戒区域
通称:レッドゾーン
著しい危険が生じる
恐れのある区域

指定緊急避難場所

- 1 避難場所
- 指定避難所
- 1 避難所





5 2
6

河川浸水想定凡例

- 浸水深5.0~10.0m未満
- 浸水深3.0~5.0m未満
- 浸水深2.0~3.0m未満
- 浸水深0.5~2.0m未満
- 浸水深0.5m未満

家屋倒壊等氾濫想定区域
(河岸侵食)(氾濫流)

- 早期の立退き避難が必要な区域

過去の浸水実績

- 令和5年7月豪雨
における浸水範囲

土砂災害凡例

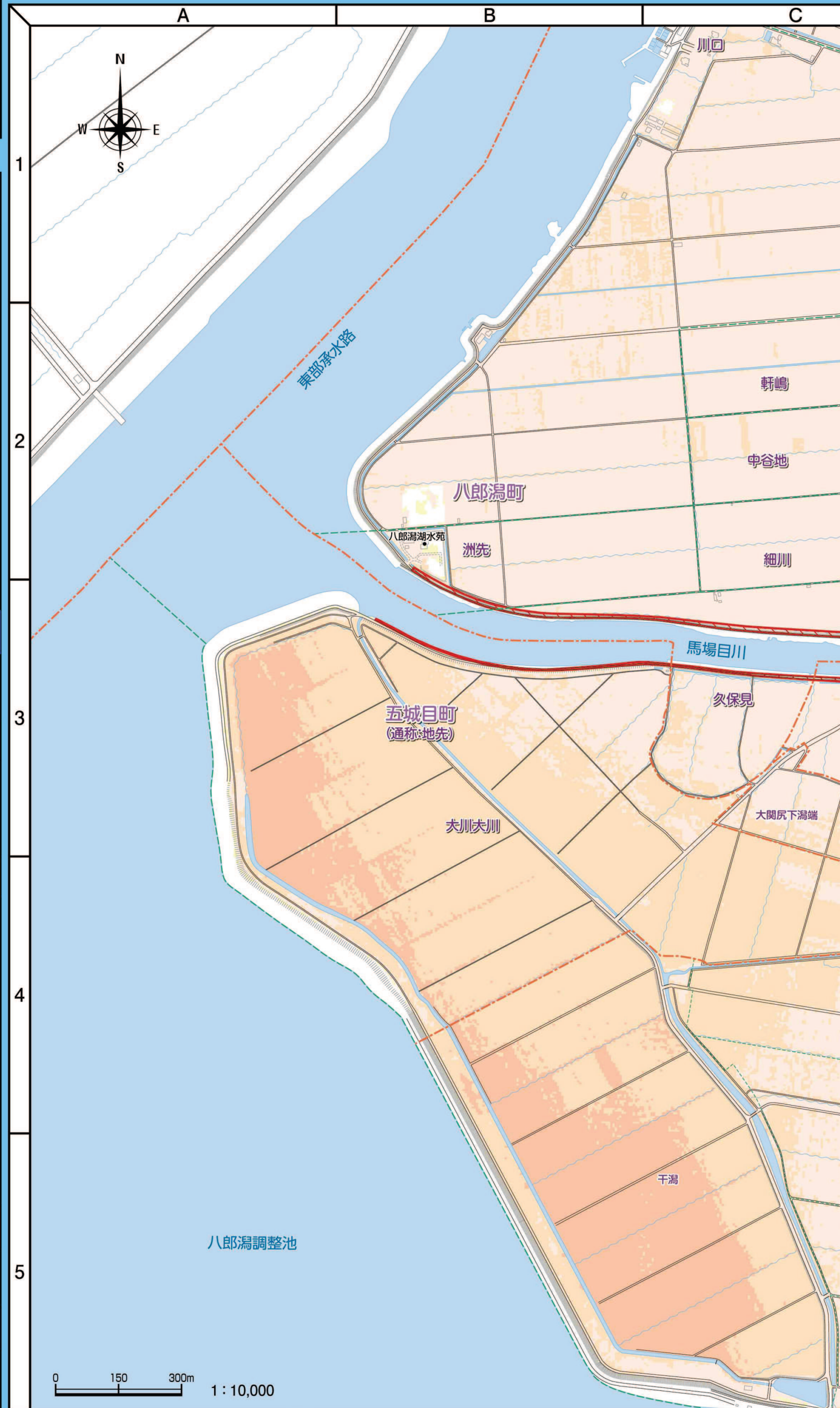
- 土砂災害警戒区域
通称:イエローゾーン
危険が生じる恐れのある区域
- 土砂災害特別警戒区域
通称:レッドゾーン
著しい危険が生じる恐れのある区域

指定緊急避難場所

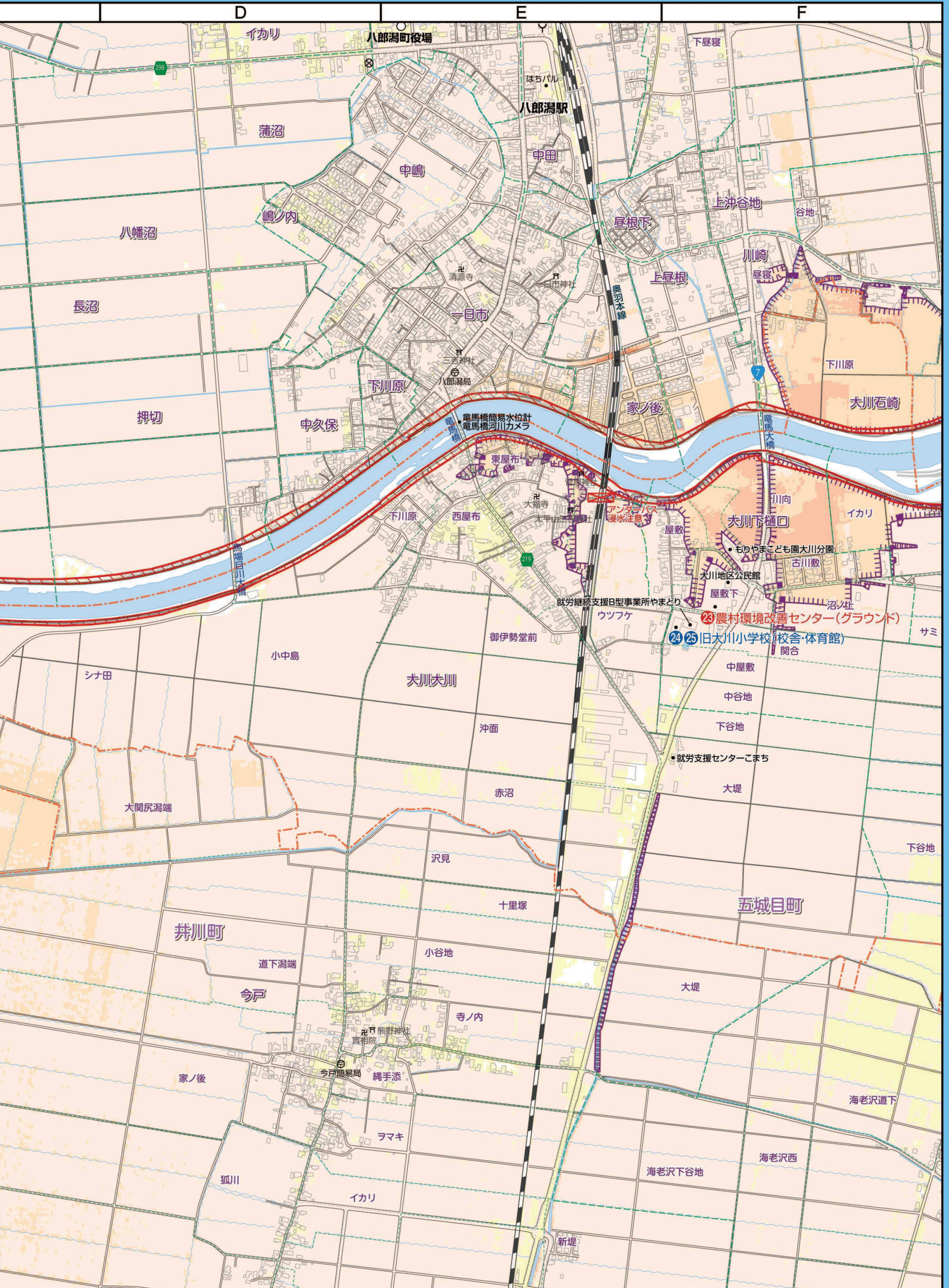
- 1 避難場所

指定避難所

- 1 避難所



洪水・土砂災害ハザードマップ5



	2	3
5	6	7
		9

河川浸水想定凡例

浸水深5.0~10.0m未満



浸水深3.0~5.0m未満



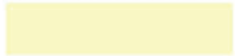
浸水深2.0~3.0m未満



浸水深0.5~2.0m未満



浸水深0.5m未満



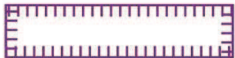
家屋倒壊等氾濫想定区域
(河岸侵食)(氾濫流)



早期の立退き避難が必要な区域

過去の浸水実績

令和5年7月豪雨
における浸水範囲



土砂災害凡例

土砂災害
警戒区域

通称:イエローゾーン

危険が生じる
恐れのある区域



土砂災害
特別警戒区域

通称:レッドゾーン

著しい危険が生じる
恐れのある区域



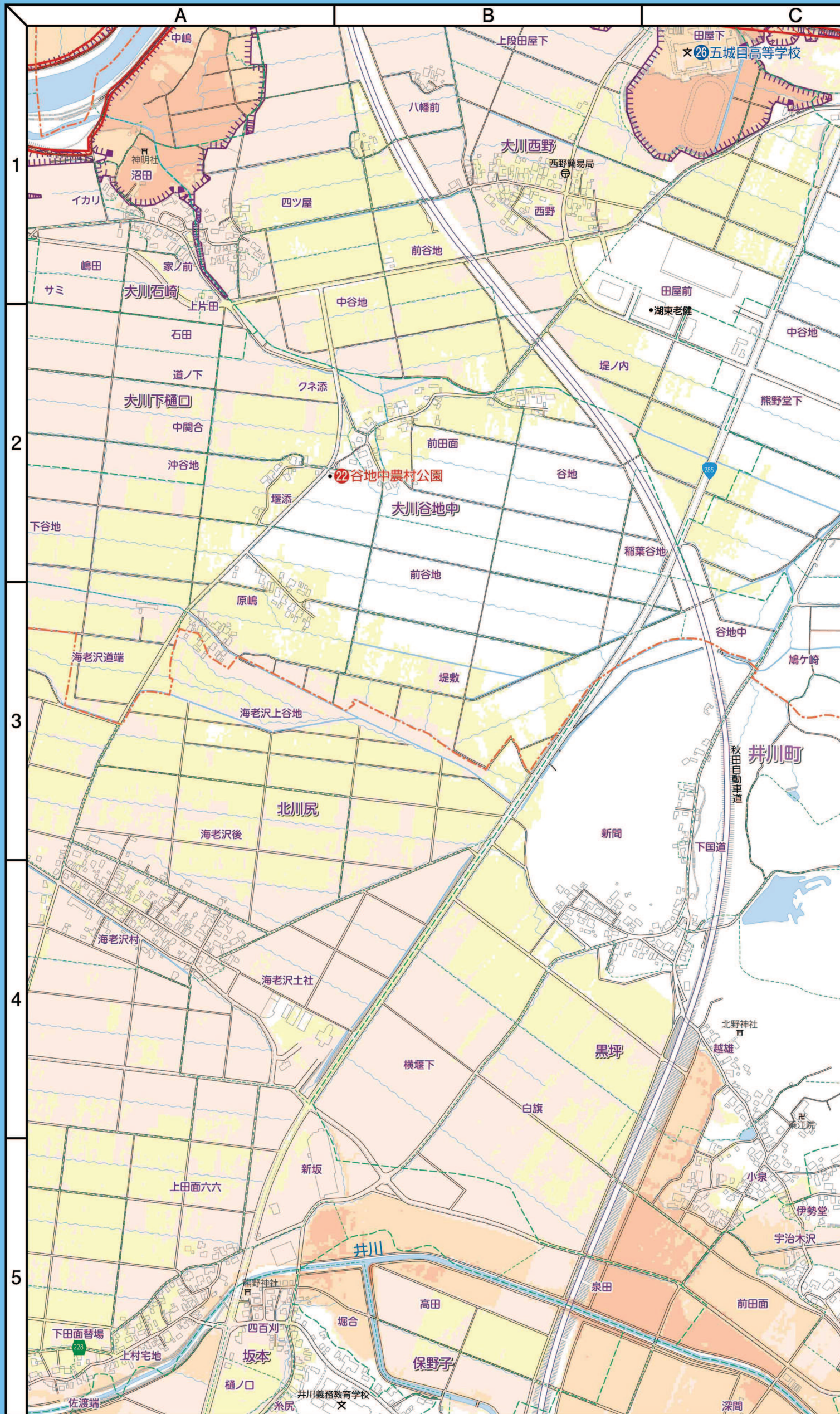
指定緊急避難場所

1 避難場所

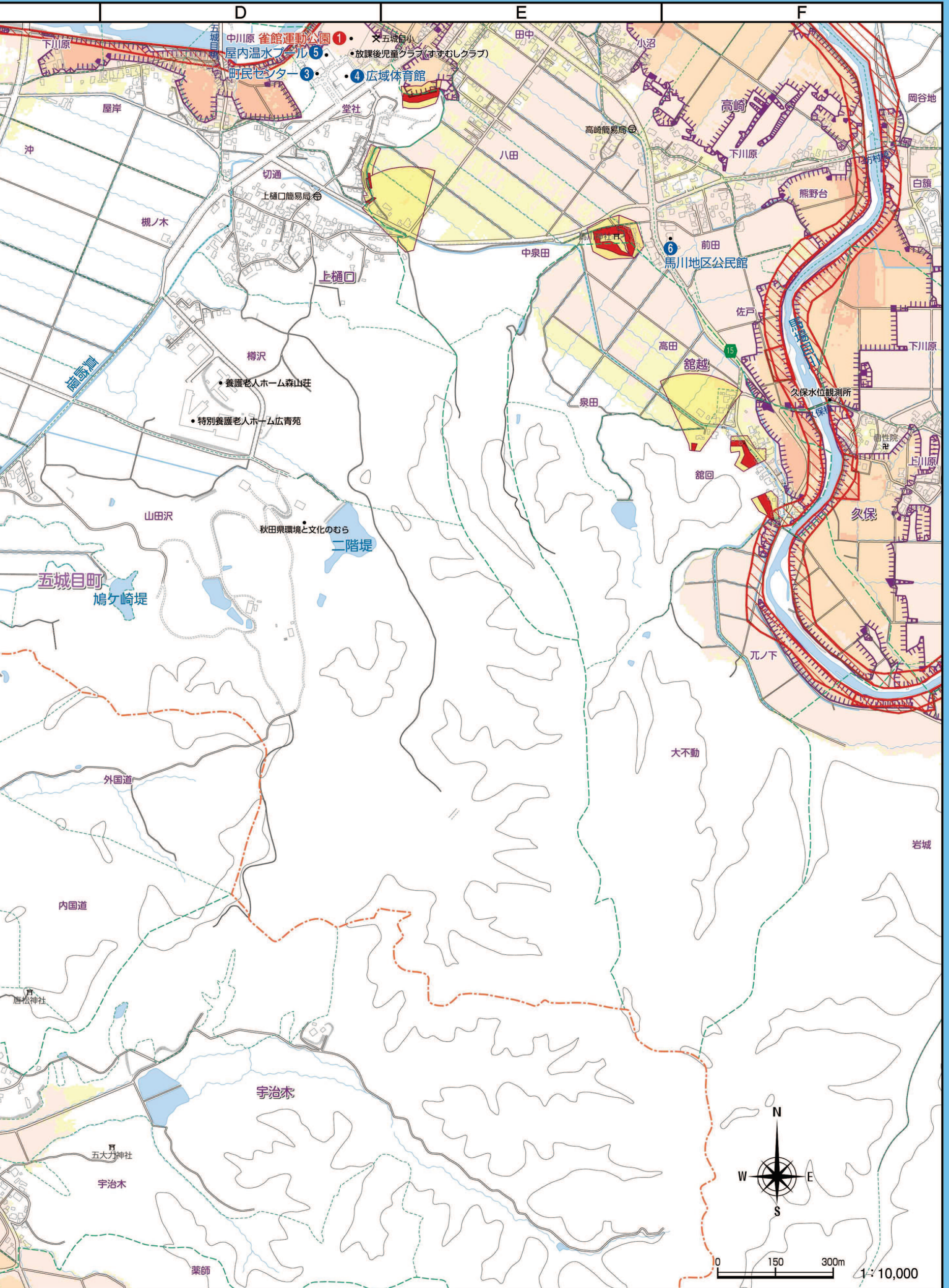


指定避難所

1 避難所



洪水・土砂災害ハザードマップ6



2	3	4
6	7	8
	9	10

河川浸水想定凡例

浸水深5.0~10.0m未満



浸水深3.0~5.0m未満



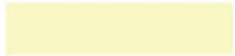
浸水深2.0~3.0m未満



浸水深0.5~2.0m未満



浸水深0.5m未満



家屋倒壊等氾濫想定区域
(河岸侵食)(氾濫流)



早期の立退き避難が必要な区域

過去の浸水実績

令和5年7月豪雨
における浸水範囲



土砂災害凡例

土砂災害
警戒区域

通称:イエローゾーン

危険が生じる
恐れのある区域



土砂災害
特別警戒区域

通称:レッドゾーン

著しい危険が生じる
恐れのある区域



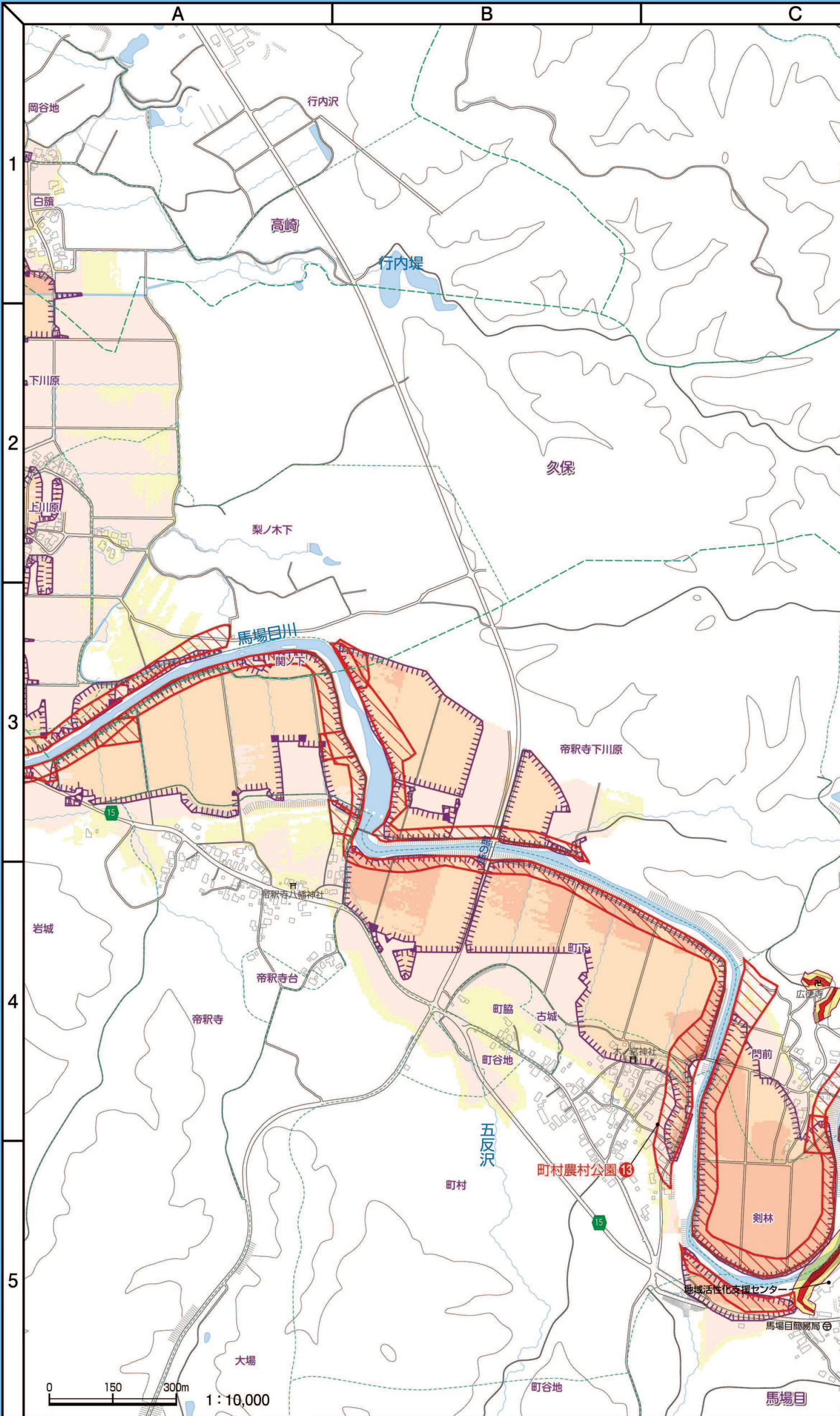
指定緊急避難場所

1 避難場所

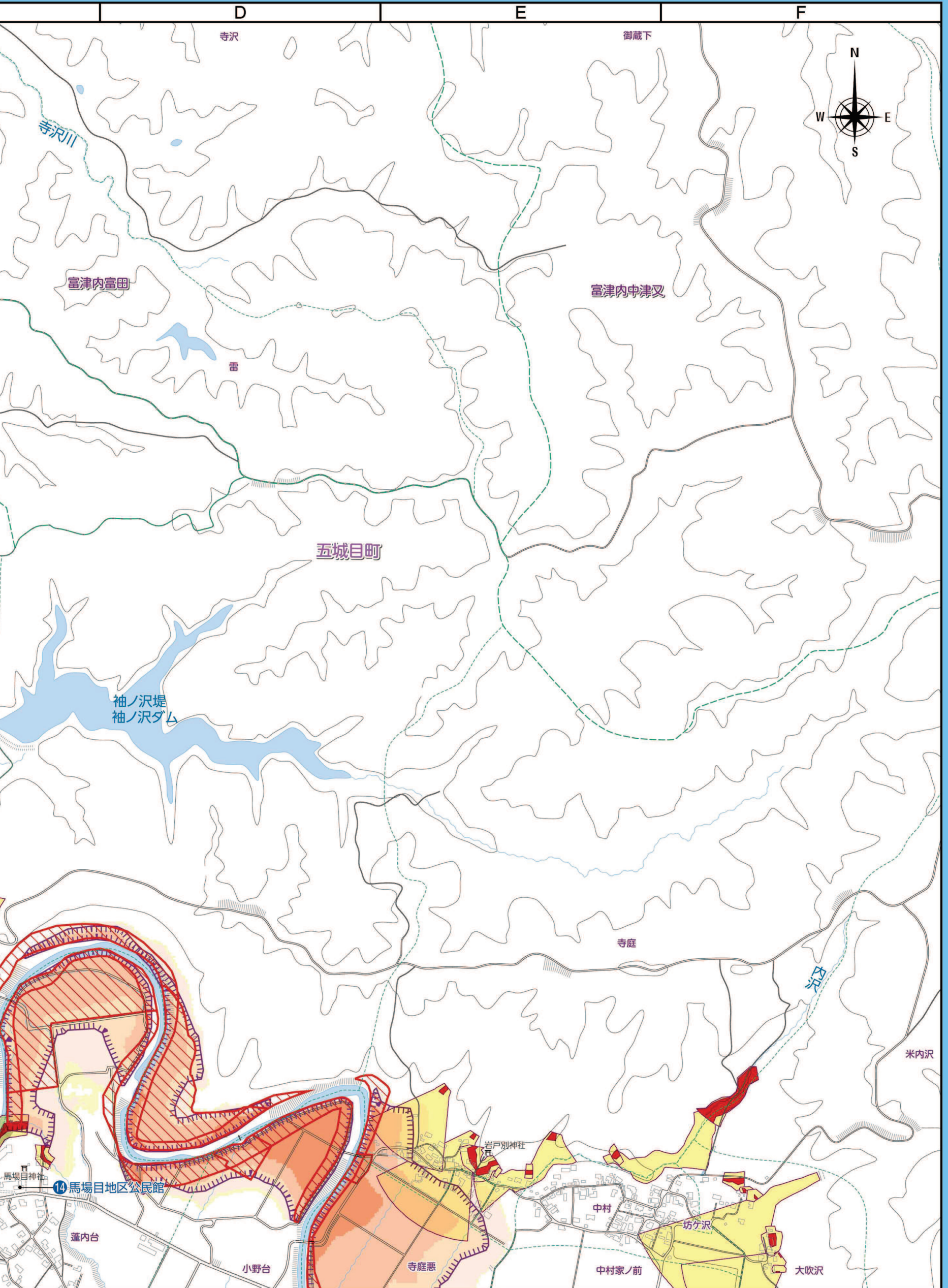


指定避難所

1 避難所



洪水・土砂災害ハザードマップ7



3	4	
7	8	カット図
9	10	

河川浸水想定凡例

- 浸水深5.0~10.0m未満
- 浸水深3.0~5.0m未満
- 浸水深2.0~3.0m未満
- 浸水深0.5~2.0m未満
- 浸水深0.5m未満

家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸侵食) (氾濫流)

- 早期の立退き避難が必要な区域

過去の浸水実績

- 令和5年7月豪雨
における浸水範囲

土砂災害凡例

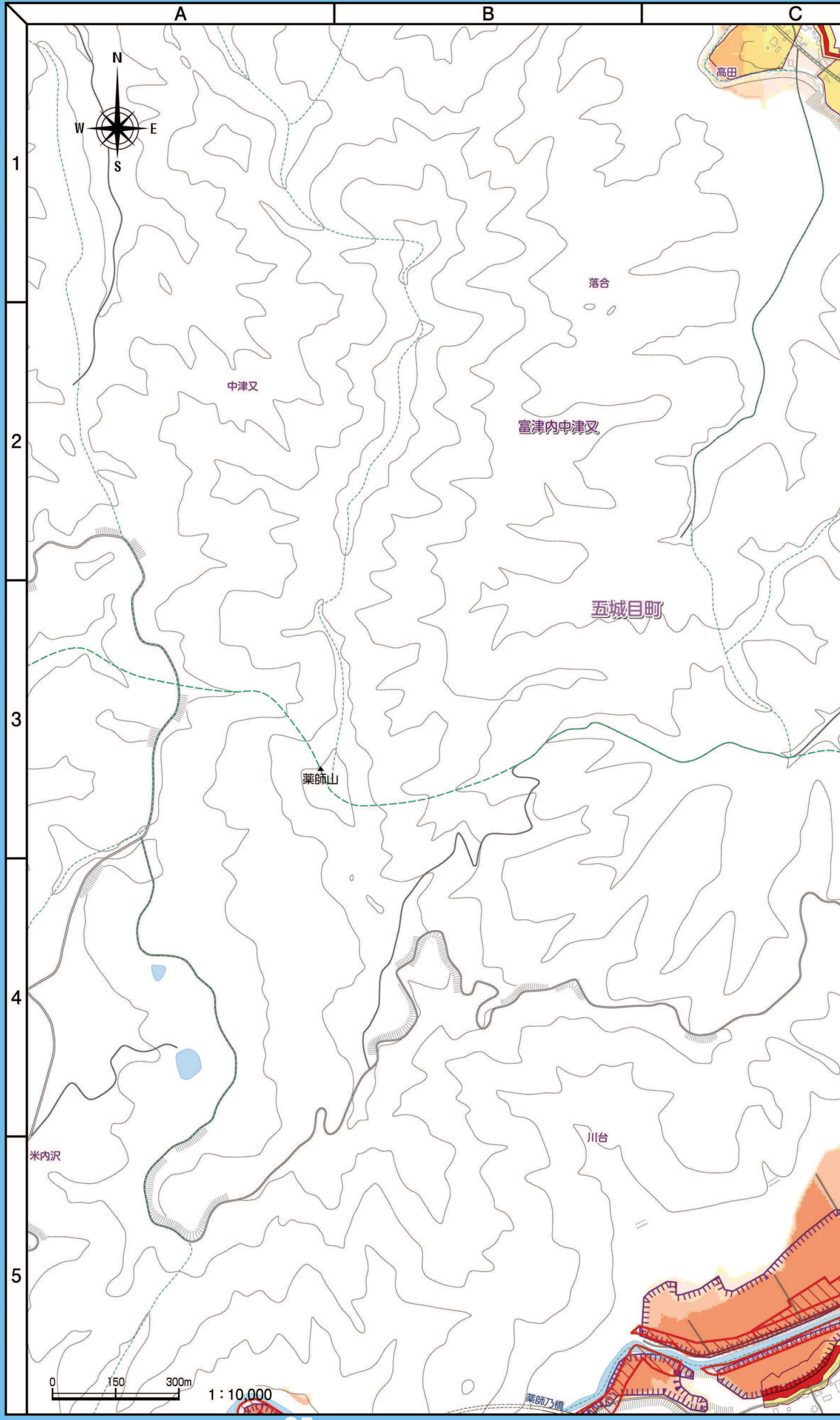
- 土砂災害
警戒区域
通称:イエローゾーン
危険が生じる
恐れのある区域
- 土砂災害
特別警戒区域
通称:レッドゾーン
著しい危険が生じる
恐れのある区域

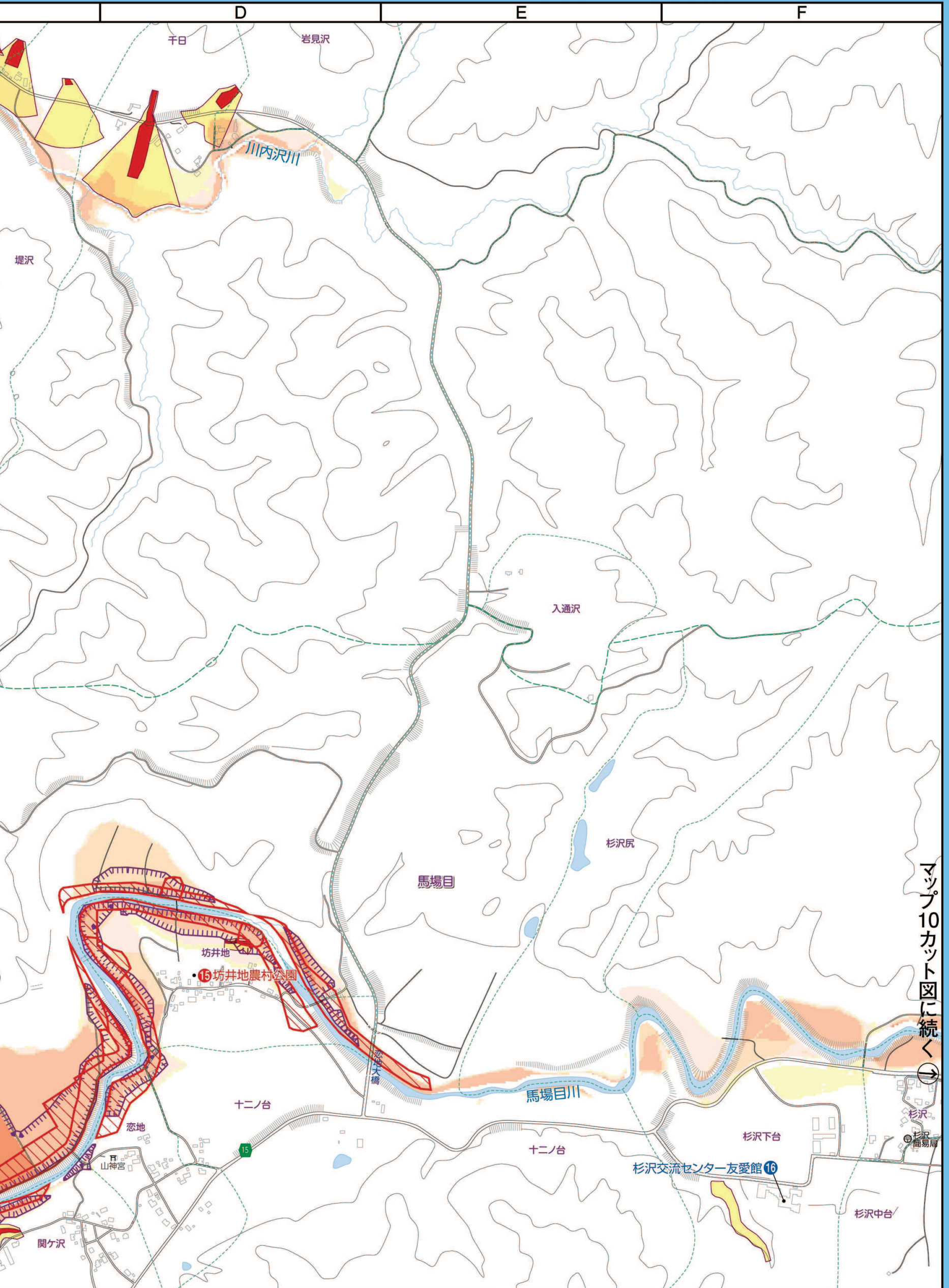
指定緊急避難場所

- 1 避難場所

指定避難所

- 1 避難所






マップ10カット図に続く

6	7	8	カ ツ ト 図
9		10	
11			

河川浸水想定凡例

- 浸水深5.0~10.0m未満

- 浸水深3.0~5.0m未満

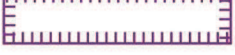
- 浸水深2.0~3.0m未満

- 浸水深0.5~2.0m未満

- 浸水深0.5m未満




**家屋倒壊等氾濫想定区域
(河岸侵食)(氾濫流)**

- 
早期の立退き避難が必要な区域

過去の浸水実績

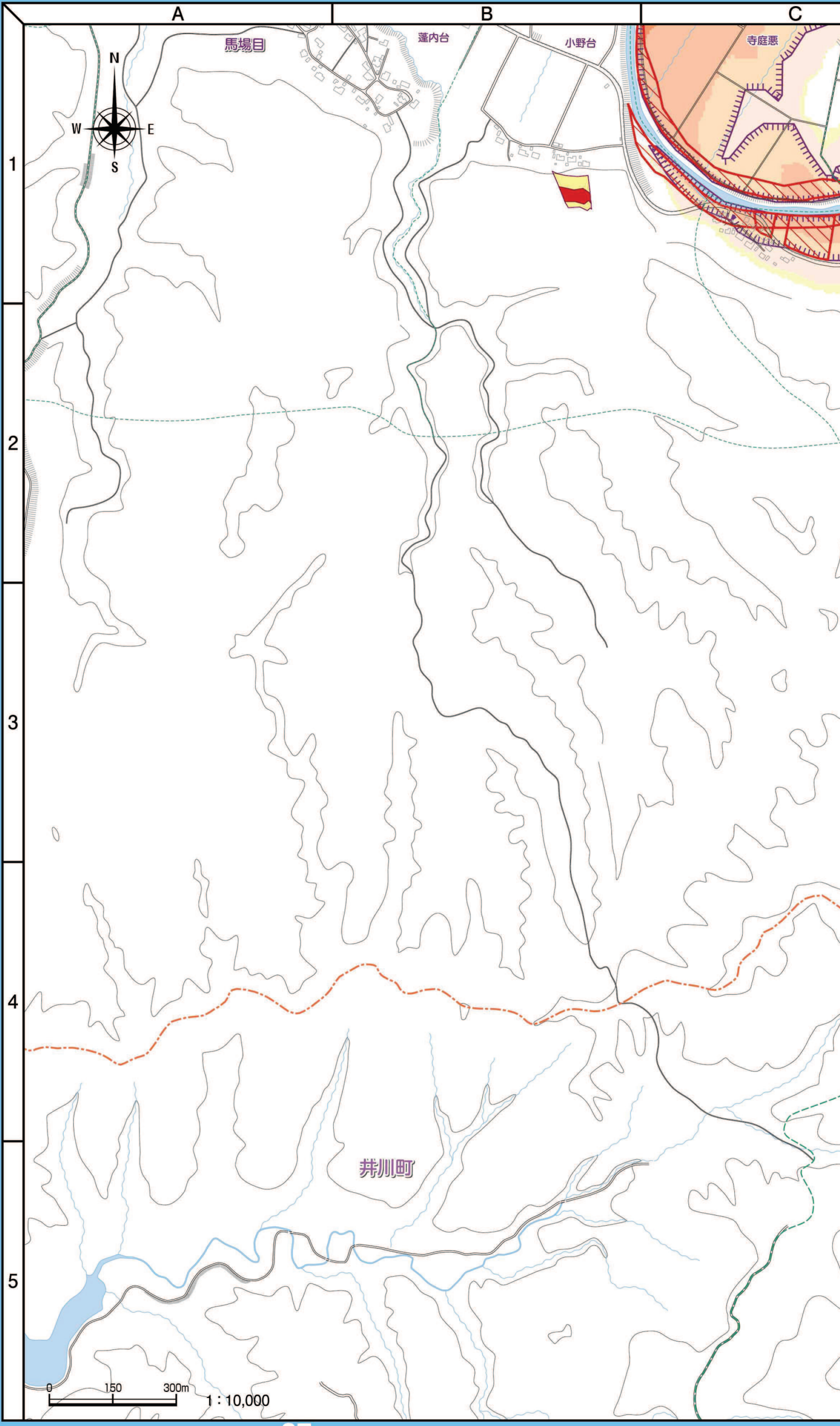
- 令和5年7月豪雨
における浸水範囲


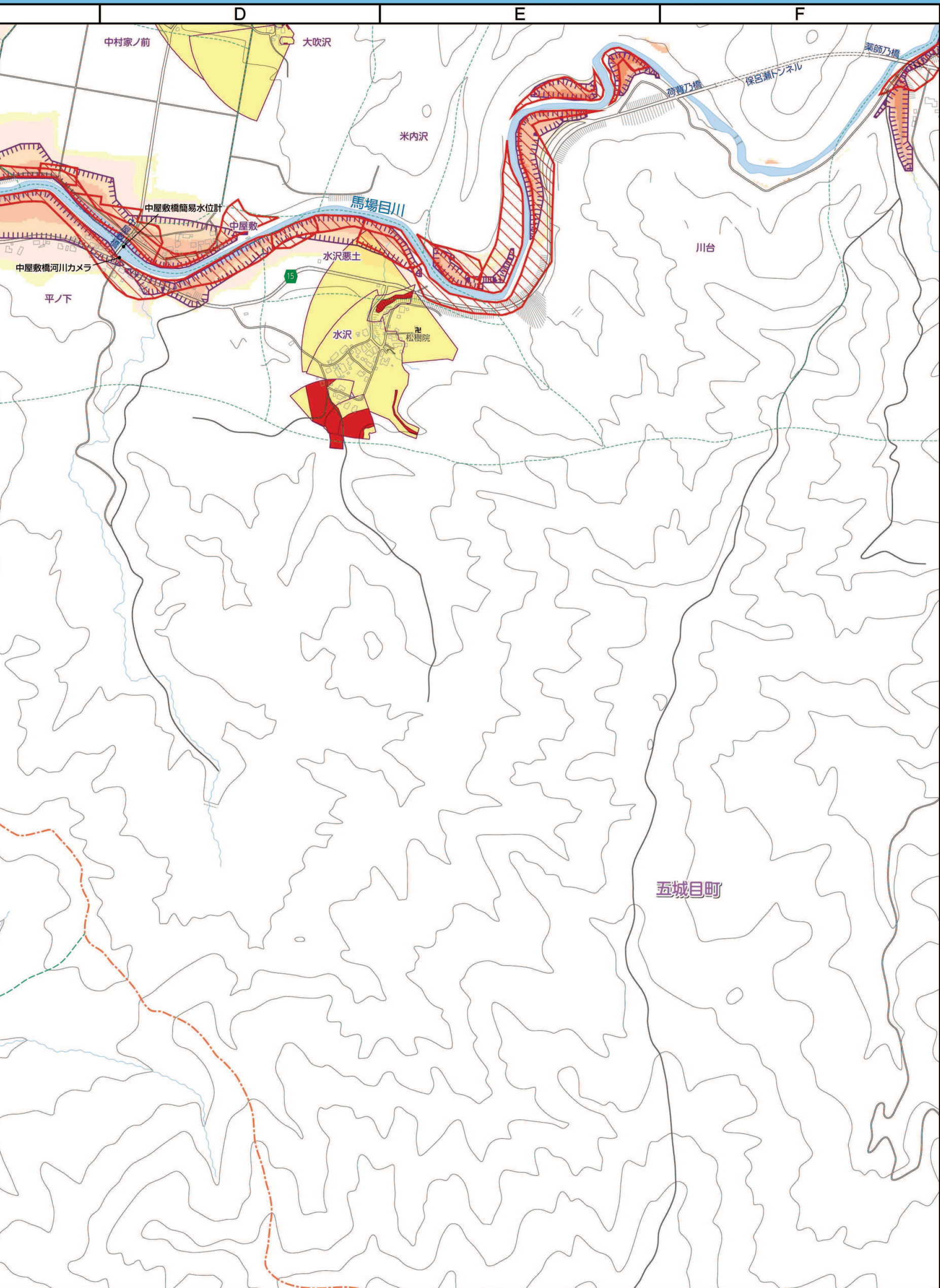
土砂災害凡例

- 土砂災害
警戒区域
通称:イエローゾーン
危険が生じる
恐れのある区域

- 土砂災害
特別警戒区域
通称:レッドゾーン
著しい危険が生じる
恐れのある区域


指定緊急避難場所

-  避難場所 
- 指定避難所**
-  避難所 







7	8	カット図
9	10	
	11	


河川浸水想定凡例

- 浸水深5.0～10.0m未満

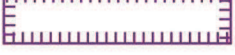
- 浸水深3.0～5.0m未満

- 浸水深2.0～3.0m未満

- 浸水深0.5～2.0m未満

- 浸水深0.5m未満




**家屋倒壊等氾濫想定区域
(河岸侵食)(氾濫流)**

- 
早期の立退き避難が必要な区域

過去の浸水実績

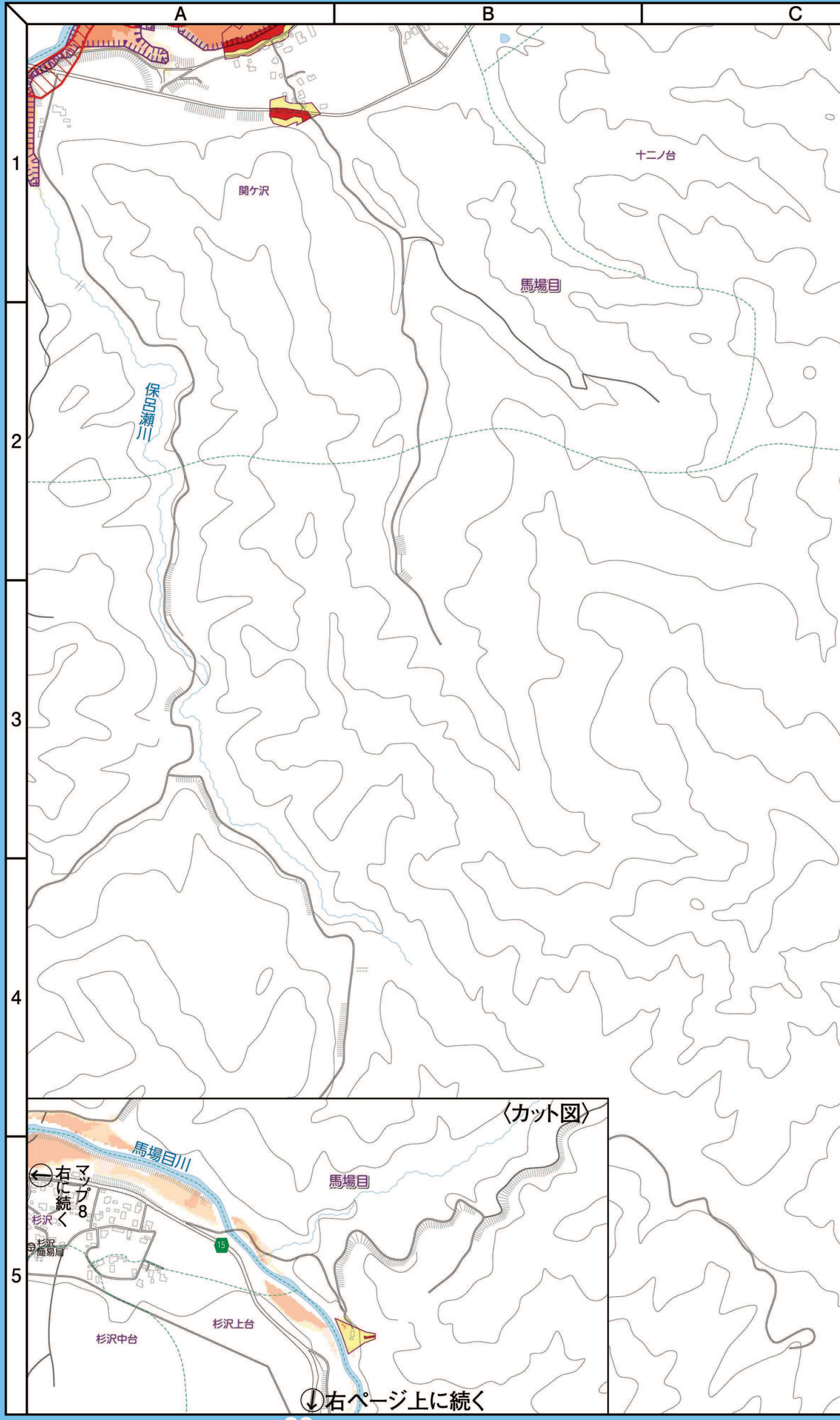
- 令和5年7月豪雨
における浸水範囲


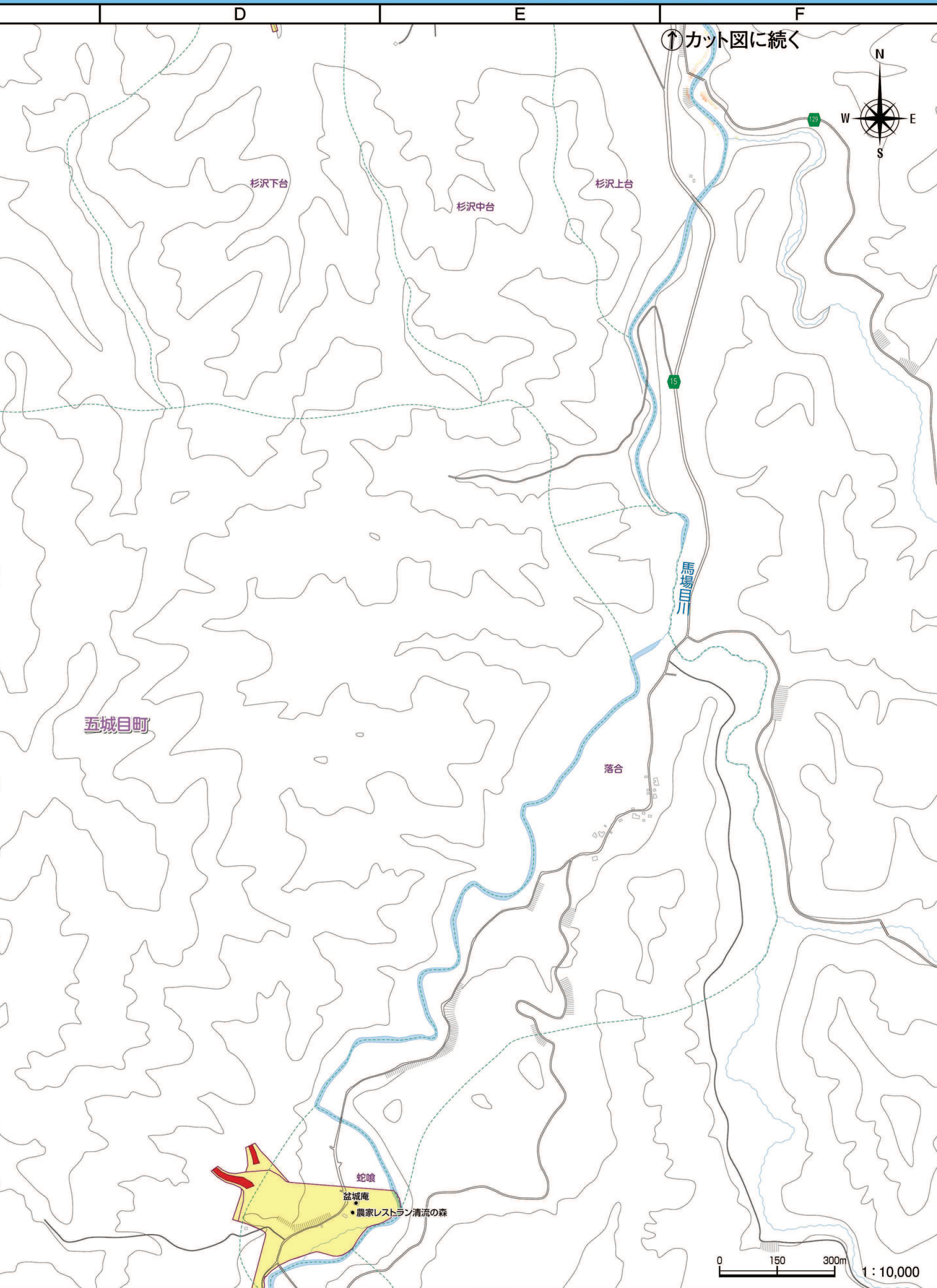
土砂災害凡例

- 土砂災害
警戒区域
通称:イエローゾーン
危険が生じる
恐れのある区域

- 土砂災害
特別警戒区域
通称:レッドゾーン
著しい危険が生じる
恐れのある区域


指定緊急避難場所

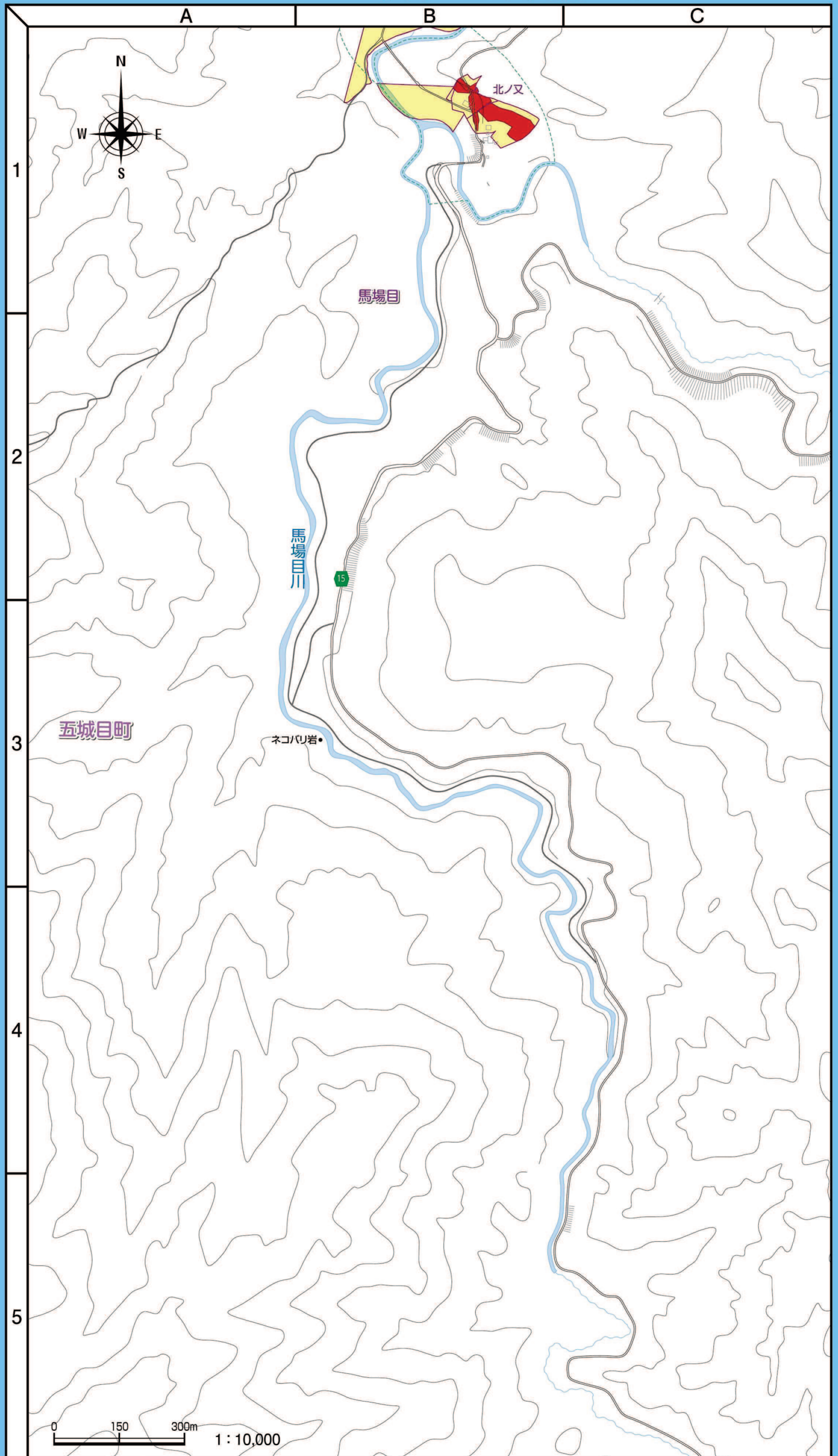
-  避難場所 
- 指定避難所**
-  避難所 





9 10

11



河川浸水想定凡例

浸水深5.0~10.0m未満



浸水深3.0~5.0m未満



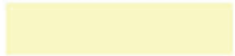
浸水深2.0~3.0m未満



浸水深0.5~2.0m未満



浸水深0.5m未満



家屋倒壊等氾濫想定区域
(河岸侵食)(氾濫流)



早期の立退き避難が必要な区域

過去の浸水実績

令和5年7月豪雨
における浸水範囲



土砂災害凡例

土砂災害
警戒区域

通称:イエローゾーン

危険が生じる
恐れのある区域



土砂災害
特別警戒区域

通称:レッドゾーン

著しい危険が生じる
恐れのある区域



指定緊急避難場所

1 避難場所



指定避難所

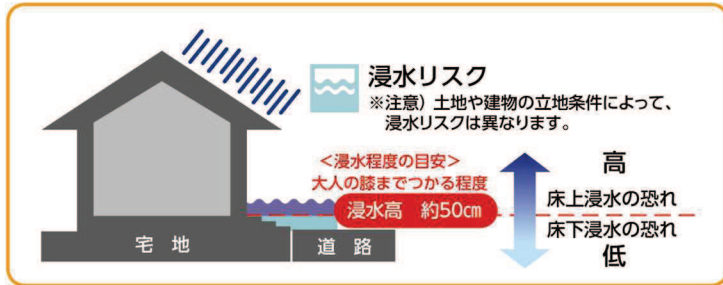
1 避難所



内水氾濫への対応

▶ 内水氾濫による浸水リスク

内水氾濫とは、短時間に局地的な大雨が降った際に、下水道や水路などの排水が追いつかず、雨水がたまり、建物や土地、道路などが浸水する現象をいいます。



- 内水氾濫は短時間で急激に発生することがあります。急な豪雨が降ってきた場合は、無理に屋外へ出ず、**自宅の2階以上など安全な高い場所へ移動（垂直避難）**し、雨が弱まるのを待ちましょう。
- **地下室や地下街、用水路等の周辺**は、急激に水が流れ込むおそれがあり**大変危険です**。近づかず、速やかに安全な場所へ避難しましょう。
- やむを得ず屋外へ避難する場合は、**足元が見えにくくなるため、マンホールや側溝、川から離れた道を選び**、十分注意して移動してください。

▶ 避難行動のポイント、危険な場所

避難の際は、**浸水想定区域の外にある避難所**など、安全な場所を目指しましょう。浸水している場所では、流れがない場合でも歩いて移動できる目安は、ひざ下（約30cmまでとされています。見た目には水深が浅くても、流れが速い場合や、マンホールのふたが外れているなど足元が不安定な場合は**大変危険**です。無理に外へ移動せず、**自宅の2階や高い場所など、より安全な場所へ避難する「垂直避難」**を優先してください。

避難する際は動きやすい服装で、できるだけ2人以上で、近所の方と声をかけ合いながら行動してください。高齢の方、身体の不自由な方、小さなお子様は、周囲の人と一緒に避難しましょう。



裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが最適です。氾濫水は濁って水面下が確認できないため長い棒などを杖代わりにして、側溝やマンホール、障害物に注意しましょう。



山鳴り、地面の亀裂、小石が転がるなどの予兆現象を確認した場合は、直ちに避難を開始しましょう。また、土石流などが発生した場合は、土砂の流れと直角に避難しましょう。



道路が冠水すると、水深10～30cm程度でもブレーキ性能が低下するおそれがあります。水深が30cmを超えるとエンジンが停止する可能性があるため、無理に走行せず、安全な場所に車を置いて、直ちに車外へ避難しましょう。



▶ 分散避難について

避難先は、必ずしも指定避難所（地区公民館など）だけではありません。災害の状況やご家庭の事情に応じて、安全が確保できる場所へ避難することが大切です。感染症への配慮やプライバシー、防犯面、小さなお子さまがいるなどの理由から、災害の危険がない親戚・知人宅へ避難する（縁故避難）、自宅で安全を確保して過ごす（在宅避難）といった避難の選択肢があります。

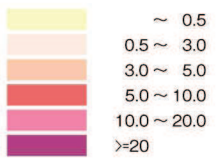


非常時持出品については45ページを参照してください。

内水ハザードマップ

凡例

内水浸水想定 (最大浸水深)



境界



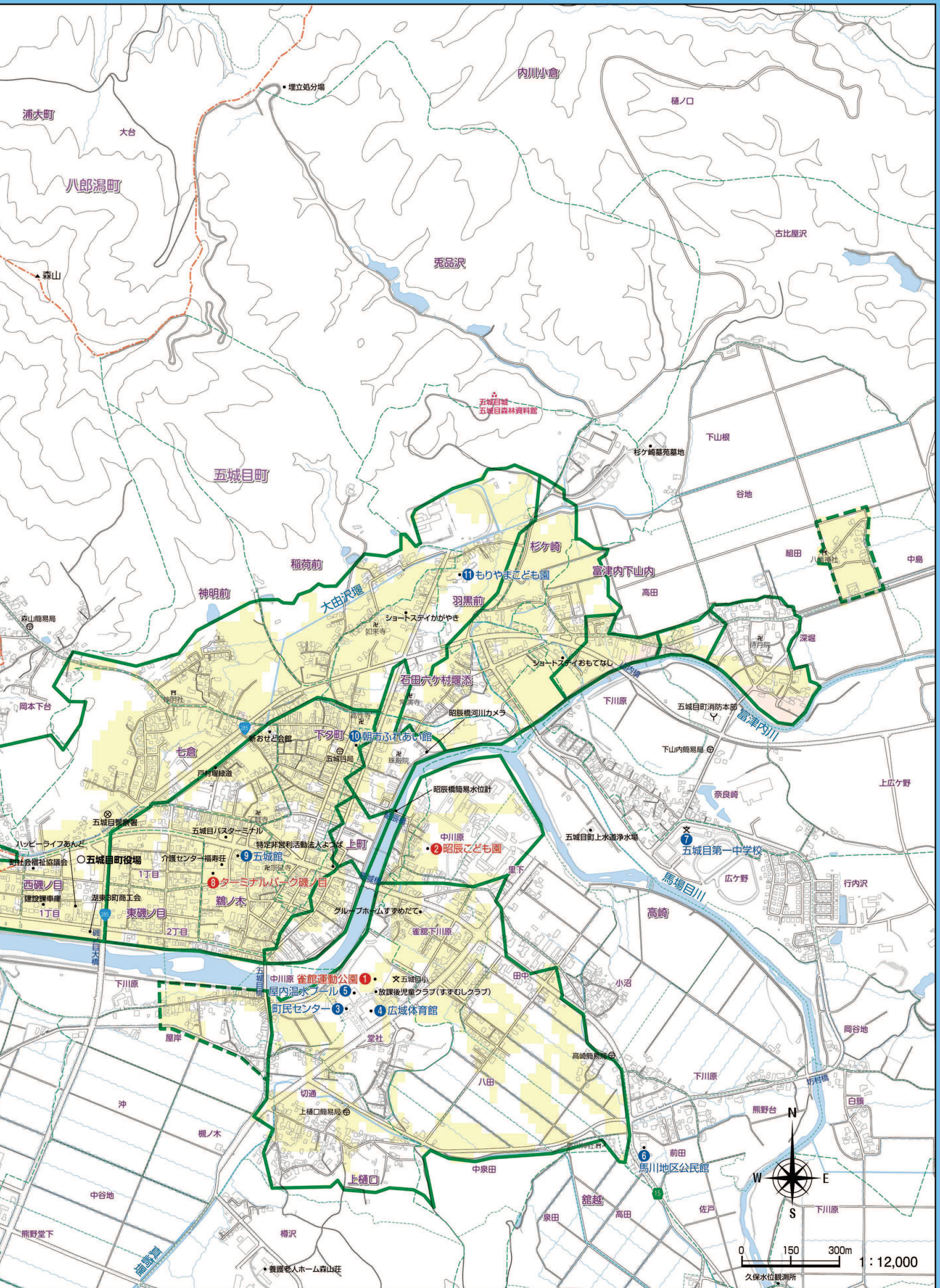
このハザードマップは、水防法に基づき、想定し得る最大規模の降雨が発生した場合に、浸水が想定される範囲や浸水の深さを示したものです。

令和5年度末時点における五城目町の下水道や排水施設の整備状況を踏まえ、1時間に150mmの大雨(想定規模降雨)が降った場合に、雨水が排水しきれず内水氾濫が発生したときの浸水の状況を、シミュレーションにより予測しています。

なお、このシミュレーションでは、河川の氾濫や堤防の決壊などによる浸水は考慮していません。

そのため、実際の大雨では、この図に示した範囲や深さを超える浸水が発生する可能性があります。





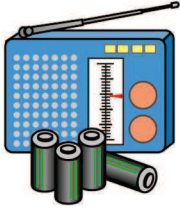
非常時持出品の準備&チェック

いざというときすぐ持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

非常時持出品(例)

事前に準備できているか、チェック✓しましょう。

携帯ラジオ



- ラジオ
- 電池(多めに用意)

救急医療品



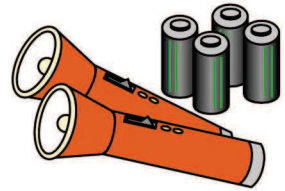
- 持病薬
- 絆創膏
- 傷薬
- 包帯
- 風邪薬
- 胃腸薬
- 鎮痛剤
- お薬手帳

貴重品



- 現金
- 預金通帳
- 印鑑
- 免許証
- 健康保険証
- 権利証書

懐中電灯



- 懐中電灯(出来れば一人にひとつ)
- 電池(多めに用意)

非常食品



火を通さなくて食べられるもの、食器など

- カンパンなど
- チョコレート
- 非常用食品
- ・クッキーなど携行食
- 缶切り
- 缶詰
- 紙皿・紙コップ
- ミネラルウォーター
- 水筒
- 栓抜き
- 割箸等

【お願い】避難所へは、必ず何らかの食料、飲み物を持参してください。

感染症対策用品

- マスク
- アルコール消毒液や除菌シート
- 体温計
- 内履き、スリッパ
- その他衛生用品(ティッシュ、タオル、歯ブラシ、ポリ袋など)

子どもがいる家庭の備え

- ミルク(キューブタイプ)
- 子ども用紙オムツ
- 抱っこひも
- 使い捨て哺乳瓶
- お尻ふき
- 子どもの靴
- 離乳食
- 携帯用お尻洗浄機
- 携帯カトラリー
- ネックライト



女性の備え

- 生理用品
- サニタリーショーツ
- 防犯ブザー/ホイッスル
- おりものシート
- 中身の见えないごみ袋



高齢者がいる家庭の備え

- 大人用紙パンツ
- 入れ歯
- デリケートゾーンの洗浄剤
- 杖
- 入れ歯用洗浄剤
- 持病の薬
- 補聴器
- 男性用吸水パッド
- お薬手帳のコピー

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック✓しましょう。
※最近では、7日間の非常食の備蓄を推奨しています。

飲料水



- 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水したポリタンクなど

非常食品



- お米(アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

その他



- 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品など

ローリングストック法とは

災害時には、物流の停滞などにより食品の入手が難しくなる場合があります。そのため、日頃から家庭で一定量の食品を備えておくことが大切です。特別な非常食だけを用意するのではなく、普段から食べている食品を少し多めに買い置きし、日常生活の中で消費しながら備蓄する「ローリングストック」を心がけましょう。

「備える」→「食べる」→「買い足す」を繰り返しながら、食べなれた一定量の食品を備蓄する方法。



わが家の「防災・緊急情報」メモ

災害時や緊急時に、家族の安否確認や救助・医療につなげるための情報を書き留めておくメモです。平常時にあらかじめ記入し、家族全員が分かる場所に保管しておきましょう。災害時には、救助活動や避難所、医療機関での対応に役立ちます。

氏名		電話	
住所			

避難場所	
家族が離ればなれになった時の避難場所	

家族構成 連絡先	氏名	生年月日	電話(携帯・会社・学校)	住所	メモ	

家族の 緊急情報・ 救急メモ	氏名	血液型	持病・アレルギー	常備薬	かかりつけ医療機関	

【メモ】 ※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報（介護情報・救急隊員への伝言など）をお書きください。

緊急時 連絡先	氏名	間柄	電話	住所	メモ	

災害用伝言ダイヤルの使い方

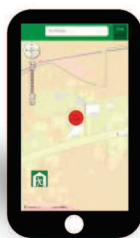
災害用伝言ダイヤルとは

災害用伝言ダイヤル(171)は、災害時に電話がつながりにくくなった場合でも、自分や家族の安否情報を音声で録音・再生できるサービスです。被災地内外から利用でき、安否確認の手段として役立ちます。

伝言の録音	[171]→[1]→[自宅や携帯電話の番号]→[伝言を録音]	伝言保存期間	運用期間終了まで
伝言を再生する場合	[171]→[2]→[相手の電話番号]→[伝言を再生]	伝言蓄積数	1電話番号あたり1~20件 (提供時にお知らせいたします)
伝言内容	伝言は30秒以内で録音できます。	利用可能電話	固定電話、IP電話(ひかり電話・050番号など)、 携帯電話、公衆電話など

WEB版ハザードマップを活用しよう!

スマートフォンやパソコンからハザードマップが確認できます!



- ・スマートフォンの位置情報(GPS)を利用して自分の居場所を中心に表示可能!

五城目町WEB版ハザードマップ

- ・パソコンからの閲覧では印刷機能を使い、自宅・学校・勤務先などを中心とした

【自分だけのハザードマップ】が印刷できます!

防災関係機関連絡先

※ライフライン・燃料含む。

五城目町役場	018-852-5100(代)	JA あきた湖東五城目給油所 (ガソリンスタンド)	018-852-3444
住民生活課	018-852-5112	荒要商店	018-852-2237
建設課(町道含)	018-852-5252	池田哲商店(ガソリンスタンド)	018-852-3257
// (上下水道含)	018-852-5133	石井商事(株)(ガソリンスタンド)	018-875-2620
総務課	018-852-5332	湖東商事(有)(ガソリンスタンド)	018-875-3550
五城目消防署	018-852-2028	島崎石油(有)(ガソリンスタンド)	018-877-2233
五城目警察署	018-852-4100	(株) 畠山(ガソリンスタンド)	018-852-3022
五城目町社会福祉協議会	018-852-5192	(有) ワタナベ燃料	018-852-3355
秋田県秋田地域振興局建設部	018-860-3432	(有) 丸六物産(ガソリンスタンド)	018-852-4016
秋田中央保健所	018-855-5171	内藤商店	018-853-2125
秋田河川国道事務所	018-823-4167	(有) 南秋ガス	018-875-5311
東北電力ネットワーク(停電・緊急時)	0120-175-366	JA あきた湖東LPガスセンター	018-855-6125
NTT (故障受付)	固定電話・公衆電話から 113(局番なし) 携帯電話・他社の固定電話 0120-444-113		

※災害対策本部を設置した場合は、夜間や休日を含めて役場の電話で対応しています。電話がつかない場合は、警備会社にご用件をお伝えください。担当者から折り返しご連絡します。また、緊急の場合は五城目消防署へご連絡ください。

インターネットを利用したリアルタイム情報提供

インターネットを利用すると、気象情報や自治体が発信する防災情報(避難情報、避難所の開設状況、河川の水位や雨量など)をリアルタイムで確認することができます。これらの情報を早めに確認することで、災害への備えや迅速な避難行動につながります。

また、テレビのリモコンの「dボタン」を押すと、データ放送から防災情報を確認することができます。災害時には、テレビやインターネットを活用して、最新の情報をこまめに確認しましょう。

・国土交通省「防災情報提供センター」

雨量や河川の水位、土砂災害の危険度など、全国の防災に関する情報をリアルタイムで確認できます。

<https://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>



・秋田県「防災ポータルサイト」

県内の気象情報や河川水位、避難情報、防災情報など、秋田県内の災害に関する情報を確認できます。

<https://www.bousai-akita.jp/>



五城目町役場

〒018-1792 秋田県南秋田郡五城目町西磯ノ目一丁目 1-1 電話 018-852-5100(代表) FAX 018-852-5399
制作・著作：株式会社ゼンリン 秋田支店

「この地図は秋田県知事の承認を得て森林基本図を使用し作成したものである 承認番号 令和元年5月9日 指令森-340」

「この地図は、五城目町長の承認を得て、同町発行の1/2500都市計画図を使用し調整したものです。」 承認番号 令和元年12月13日 五建第10042号
「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 5JHs 167-598号」